

アークナイツRPG 『貴族として』 取得RTA

ガイヤ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

学園でサバイバルしたり、青春するRTAはーじまーるよー！
アーヴナイトやり始めたら面白えシナリオ見ちまつて脳内で妄想
が大流行したので初投稿です▼完走。記録1時間14分51・4秒

目 次

part. 0	キャラメイク	1
part. 1	半年間の準備	8
part. 2	チエルノボーグ事変	14
part. 3	地獄の始まり	22
part. 4	剣を握った日	29
part. 5	ウルサス学生自治団	36
part. 6	貴族グループと食糧庫	43
part. 7	I F ルート？ロドス・イン・ホステイモ？	51
part. 8	天災襲来	57
part. 9	星に願う夜	63
part. 10	貴族として	72

part. 0 キヤラメイク

はい、よーいスタート（棒読み）

はじめまして、アークナイツ界のRTA走者の第一人者と呼び声高い（？）イツチです。

今回はアークナイツRPG『きらつ★アビサルハンターと行く海の旅』RTAではなく、そのチャート構成に行き詰った息抜きとして、ウルサスの子供たちルートの『貴族として』取得RTAの投稿になります。

私が今回走ろうとしているウルサスの子供たちルートは先駆者様達が様々な角度からRTA動画を投稿していらっしゃるので、イツチの動画を見るような方達なら「今更ウルサスの子供達とか何番煎じだよ」「もう見た」「アビサルから逃げるな」と仰られるでしょう。

しかし、待つてほしい。毎回軟體生物を狩つてスカジやスペクターとイチャコラしたり、アイリーニのおでこを撫でるばかりの動画で良いのかと？いや、それが悪いとは言つていないのでですが、時には変化が欲しくなりませんか？

具体的にはそう、ズイマー や グム達の曇り顔が欲しい、欲しくない
？（迫真）

だけども本命のRTAも上手くいっていないのに、息抜き一つに時間が多くかけてはいられない。だから短時間で脳を休めながら記録更新も目指せるようなRTAはないかと一生懸命探しました。えつ、そんなのが都合よくあるわけないだろって？あつたんですよ！

というわけで、冒頭に話が戻りますが今回はハートフルチエルノボーグサバイバルこと、【ウルサスの子供たち】での『貴族として』トロフィーの取得を目指して、やつていきたいと思います！

では、今回の『貴族として』の取得条件について話していきたいと思います。

・ズイマー、グム、イースチナ、ロサ、リエータの5人を生存させた状態でロドスに救助されること。

・5人を保護し、ロドス到着までS A N値を平均50以上に保つこと。

- ・エンディングまでに5人全員の好感度を150以上にすること。
- ・生まれがウルサス貴族であること。

この4つです。

何だ、たつたの4つかよ、簡単じやないかと思つたそこの貴方！確かに条件だけ見れば、他のR T Aに比べて簡単そうに見えますが、2番目と3番目の条件がこのトロフリー取得の面倒くさいところなんです。

まず、大前提としてアーチナイツR P Gのキャラ好感度の最高値は200です。つまり150は最大好感度の3／4を意味します、好感度200で二つ返事で心中してくれる事を考えれば、好感度150がどれだけの高さか分かつてもらえると思います。その上で上記のメンバーの5人の内、ロサ以外の4人は基本的にウルサス貴族が嫌いです。特にズイマーは、普段から平民相手に弱いものイジメばかりするウルサス貴族を大嫌いといつても過言ではなく、ウルサス貴族として始める彼女から好感度を稼ぐのは、いやーキツイでしょ（諦め）

因みにアーチナイツR P Gでは最初の好感度チェック以外で好感度の数値を正確に確認することは出来ません。キャラクターの言動から経験則で計るしかないとかおかしい、おかしくない？

なので、このトロフリーはウルサス貴族としてチエルノボーグ災害を通して、彼女達の好感度を荒稼ぎしながら、食糧を確保してレュニオンをどうにかしてロドスへ無事に辿り着く形になります。

因みに原作じゃ5人だけでロドスへ行けたんだからお前居なくても余裕だろと思われる方も多いかと思いますが、アーチナイツR P Gになった結果、放つておいたらほぼ100%彼女達全員死にます。ゲーム会社によつて本編シナリオからサブストーリー含め、オリジナル主人公が色々と活躍してやつとクリアできる難易度にされているからですねえ。このゲーム作つたやつ絶対性格悪いよ（確信）

よし、それじゃあトロフリーの取得条件についてはこの程度にして

おいて、本番のキャラメイクに行きましょう！

アークナイツRPGのキャラメイクは氏名や性別、生まれを決める
とステータスや素質なんかはランダムで決まります。はつきり言つ
て息抜きなので再走もしませんし、キャラメイクも一発勝負で行きま
す。大丈夫、イツチはこれでもアークナイツRPGの大ベテランです
からね。どんなキャラが来ようと完走してみせますよ！

まずは性別ですが、もちろん男性です。攻略対象とは異性の方が好
感度100以降が上げやすくなりますからね。逆に同性だと100
まで上げるのが早くなるんですけども。

お次は種族と生まれですが、これはトロフィー取得条件の為にも
【ウルサス】【貴族】一択ですねー。これを他のサルカズとかに変える
と意味がないですから。

そして名前は入力速度を考慮して、『ホステイモ』にしました。略し
てホモくんと覚えましょう（につこり）

さあ、本番のステータスが決まります！ 果たしてどんな子が来て
くれるのか楽しみですねー！

【氏名】ホステイモ

【HP】900

【攻撃力】300

【防御力】100

【術耐性】0

【物理強度】標準

【戦闘機動】普通

【生理的耐性】標準

【戦術立案】普通

【戦闘技術】普通

【アーツ適性】優秀

【スキル】剣術、ポーカーフェイス？？、傲慢、不撓不屈、貴族思考

【アーツ能力】エネルギー変換

お、おおー！ わりかし良い感じじゃないですかね。上の基礎ステ
はまだ弱いですが、一つも欠落は無いですし、一番大事な生理的耐性

も及第点、アーツ能力も当たりの部類です。特徴でポーカーフエイス??と傲慢が一緒に来たのは初めてなのでどんな感じになるかはわかりませんが、サバイバル生活の上で不撓不屈のスキルは素晴らしい武器でなると思います。貴族思考はどうかつて？まあ、これは雰囲気スキルとか呼ばれるテキストが変わる程度のゴミスキルなので見なくてヨシ！

いやー、幸先がいいですね！これが普段からの行いが良いわたしへの神様からのプレゼントですかねえ。

初めての視聴者の方には分からぬ方もいると思うので、ステータスの説明をしますねー。

簡単に言えば、上の基礎ステの4つが戦闘の判定で使うもので下の6つが選択肢関係の直接戦闘以外判定で使うステです。

スキルについては名前の通りで、剣術は剣を持つた戦いで戦闘力に+するスキルで、ポーカーフエイス??は思っていることが顔に出やすくなり、好感度補正に影響します。つまりはサトラレくんになる感じですね。傲慢は周囲の好感度を上げにくい代わりに、生理的耐性を強化します。あと、不撓不屈は生理的耐性を強化して精神判定の場面で成功しやすくなります。

好感度上昇の邪魔になる傲慢は後のサバイバル生活の為に必要な生理的耐性を強化してくれますので、走者の中には本走で採用する人もいるみたいです。まあ、わたしはアーティファクト走者屈指の好感度調整の鬼と有名ですので、こんなスキルだろうと上手く使いこなしてみせますよー。

最後のアーツ能力はエネルギー変換ですか……。自身のアーツを通して電気でエネルギーを直接得たりするサバイバル向きのアーツですね。欲を言えば直接火力系のアーツが良かつたのですが背に腹は変えられません。やろうと思えば戦闘にも使えると思うので、これで行きましょう。

よしよし、準備の方は終わつたのでそれでは本編を始めていきたいと思います。ウルサスの子供たち編のところをタツチして、タイマースタートです！

——僕の名前はホステイモ。誇りあるウルサス貴族だ。今は平民の多いこんな高校に通っているが、直ぐに実績を積み上げてウルサス帝国の上に立つ者としての責務を全うしてみせる。

おお、始まりました。作中時間はズイマー達の高校にレユニオンのホモ野郎達がウルサス貴族達を連行してくる半年前になります。これから色々と動かないといけないのですが、先ずはホモくんがモノローグで話している内容を加速しながら、現在の交友関係の確認といきますか。

こちら辺は完全ランダムなので、ズイマー達5人の接触が既にあるかどうかや、周りからの好感度なんかを最初に確認しておかないといけません。

まあ、だいたいが大きくても好感度マイナス10くらいなので半年後のドキドキ学園サバイバル開始までには口サ以外の4人の好感度を50くらいまでなら上げると思います。そう、わたしならね！さてさてー、それでは皆さん的好感度の方はどうでっしゃるー？

【好感度】

- ・ペテルヘイム高校の生徒達『—30』
- ・リエータ（ロザリン）『—10』
- ・グム（ラーダ）『0』
- ・イースチナ（アンナ）『0』
- ・口サ（ナターリア）『0』
- ・ズイマー（ソニア）『—100』

フアツ！ ふざけんな！ （声だけ迫真）

何でホモくん、ズイマーからこんなに嫌われているんですか？（困惑）好感度マイナス100ってなんか理由あつたら殺しにくるレベルなんですけども……。
はああああー。どうすつかなく俺もなく。しゃあない、切り替えていく。

マイナスなら逆に考えればあとは上がるだけですからね。僕はまだマイナスなんだ、ゼロに向かっていきたいと思います。とりま、レ

ユニオンのホモ野郎共が来て、グム、イースチナ、ロサの3人が連れこられるまでリエータとズイマーしか接触できないので、今後のためにはズイマーとは今のうちに関係を修復しないといけません。

な、の、で！ 先ずはズイマーへの足がかりとしてリエータに媚を売りに屋上へイキますよ～イクイク……。



「おい、此処は今から僕が使うんだ。邪魔だ平民、うせろ」

そいつはいきなりやつてきた。いつもの屋上で優雅に風と太陽の光を楽しんでいる私のところへ、学校一の嫌われ者が。

『ホステイモ・ムーイ』。ペテルヘイム高校における【冬將軍】、【夏將軍】（私）と同じくらい名が知れ渡っている人。こいつの異名は【ウルサス貴族】。何故か貴族様達の通う高校ではなく、私達が通う平民の多いペテルヘイム高校にやつてきた辺境にある小さな貴族家の一人息子。

何処かもしやもしやとした黒髪と周りを見下す我の強そうな瞳。皆んなからの嫌われ者。悪いウルサス貴族の代表例。道路の端っこにある啖カスと惡意のある呼び名が多数にある、転入して早々にズイマーと大きな喧嘩をして学校中に話題を呼んだやつだ。

「ふざけんな、私が先にいたんだ。何で私が出ていなきやならないんだ。スペースなら駄々余つているんだから、そつちを使えよ」

何故ムーアの野郎が屋上にやつてきたのかは分からぬけど、言ひなりになつて此処を出ていくのはプライドが許さなかつた。私はプライドとノリと勢いで生きているんだ。たとえ相手が貴族様だろうとこの生き方は変えない。

「……ふんつ。生意気な平民だな。まあ良いだろう、お前の滯在を許可してやろう。僕の邪魔はするなよ」

此方の返事を待たずに、ムーイは腰に刺していた装飾がキラキラと

していゝ劍を抜き去り、構えた。

「――――」

思わず、綺麗だと思った。先程の傲慢な貴族様と違う、素人目にも研ぎ澄まされて見える剣の舞。噂で聞いていた男とは思えない、そこには確かに積み上げられた努力の跡が見て取れる。

私は数十分の間続けられる、その剣術の型らしき動きに見惚れていった。

「……ふう。やはり静かな場所での鍛錬が一番集中できるな」

ムーアイが見惚れていた私の方を向く。

「また来る。屋上にいることは許すが、僕の為に鍵は常に開けておけよ平民」

好き勝手に自分の要求を突きつけて、ムーアイは屋上から出ていった。

「……なんなんだ、あいつ」

私はムーアイとのこの日の出会いを一生忘れないだろう。

part. 1 半年間の準備

まだ平和なペテルヘイム高校でのみつちり修行パートなRTA、はーじまーるよー。

前回は、ホモくんのキャラメイクと周囲の好感度を見て、あとちょっとつと屋上でリエータと茶をしばいた所で終わりましたね。今からは、レユニオンの白フード野郎共に口サ達が連れてこられるまでの一年間の間に、ズイマーとリエータの好感度稼ぎと並行してステ上げとスキルの準備を終わらせたいと思います。

というのも口サ達が連れてこられてドキドキ学校世紀末伝説が始まると、ろくにステータス上げやスキル習得へ費やす時間が取れません。そんな事より食糧確保しないといけないからしようがないね。流石に飢え死ぬのは、いやーキツいっす（3敗）

本番のレユニオン暴動が始まる前に目標として、ステータスはHP1500、攻撃力500、防御力150を、スキルは剣術〇への強化と打たれ強さ〇、料理上手、サバイバル知識の習得が出来ると良いと考えています。

説明すると、今回のチャートでは出来るだけ早くクリアする為に本来なら隠れてやり過ごさないといけないレユニオンや暴徒を積極的にぶつ飛ばして進む強行策を取ります。ですのでそれが出来る強さが前提として必要になつてくるのです。上記のステータスは未昇進のレベルMAX剣神メランサ姉貴とタイマン張れるレベルのステータスです。勿論スキル未使用ですよ？　スキル使用されたら、そりやもう、ダメみたいですね（諦観）

スキルの方ですが、剣術〇への強化、そして打たれ強さ〇の取得は先ほどと同じ理由で戦闘力に直結するからです。まあ、剣術スキルがあるので打たれ強さ〇は手に入つたら良いな程度なのですが、剣術を剣術〇への強化については絶対にしておきましょう。今回のチャートでこのスキルをキヤラメイクで得られたのは大きいと思います。剣術があるだけで【剣豪】や【武者】という職業につけます。

剣豪は通常攻撃が2回になり、一度に相手できる敵が一人増えると
いう職業で、オリジムシの様に大量に湧いてくるレユニオンの雑兵を
相手にする時役に立ちます。武者は、通常攻撃も一回で一度に一人と
しか戦えませんが、その代わりに敵へ攻撃を加える事でHPを回復す
る特徴があります。これが強敵相手への撤退戦における時間稼ぎな
んかに使えるので、此方も有用な職業となっていますね。

え、今の剣術の今まで良い職業につけるなら強化する必要があるの
かって？ ありますあります！

剣術○へとスキルを強化することによつてスキル技である【峰打
ち】を覚えます。この技は如何なオーバーキルダメージを与えても相
手を戦闘不能状態にするだけで殺す事はありません。

この技がないと、うつかりズイマー達の前で敵を斬り殺すと彼女達
のSAN値が減ります。学校での殺し合いが始まるあたりからSA
N値回復する手段も殆どなくなるので、戦闘が多くなるであろう今
チャートではあれば大活躍のスキル間違いなし！ これを見ている
ホモ達も剣術を持ったキャラを引いた時は必ず取得、しよう！ （1
敗）

料理上手とサバイバル知識に関しては学校脱出後に響いてくるの
で、出来るだけ入手するようになります。この一年間で入手できな
かつたら、最悪生徒達が殺し合つてる中で料理の勉強をしたり、本を
読みに図書室へ行こう！（気狂い）

それでは、各ステータスとスキルをあれやこれや出来る場所を教え
ましょう。

まずは定番の屋上、家庭科室、図書室です。

屋上は剣術以外にも様々な自己鍛錬系のスキルを強化できる場所
なのでお世話になつたホモ達も多いと思います。家庭科室は料理上
手以外にも裁縫上手や包丁さばきなんかのスキルを得ることが出来
る場所です。包丁さばきは剣術の完全下位互換スキルですが、剣術が
ないなら此処で代わりにスキルを取るのも良いかもしれません。

図書室は様々な本が置いてあり、知識系スキルの習得や強化なんか
を全部できる神施設です。なんで、料理本とシーボーン関連の本が一

緒に存在しているんですかね……。可笑しいよこの図書室。でも悲しいことにこの話だと生徒の殺し合いに巻き込まれて燃やされるとが多いんですねー。人が中にいる時に火をつけるのはやめてくれよ……（絶望）（5敗）

後はHP、攻撃力、防御力を満遍なく上げれる体育館も良く行くことになると思います。術耐性については……ナオキです……。

ズイマーとリエータの好感度稼ぎについては、リエータは屋上にいることが多いので剣術〇強化のついでにコミュればOKです。所詮はプライドで内心を覆い隠そうとしている青い女子高生ですよ。数多のキャラクターを攻略してきたわたしのテクにかかるば造作もありません。

ズイマーに関しては、リエータの好感度上げて一緒に会つて貰えば、流石に初手斧振り下ろしにはならないと思います。ズイマーちゃんは殺す時には簡単に人を殺す恐ろしい女子高生ではありますが、【弱者の守り神】【イジメつ子の天敵】と言われているのは伊達ではなく、心根はとても優しい子です。なんかそんな女の子に殺意抱かれるくらい嫌われている奴がいるらしいですよ。ホモくん君一体何したの？

ズイマーはちゃんと会つてコミュが取れるようになれば、彼女の前でイジメやらしない限りは自ずと好感度が上がっていくチョロインなので実はそこまで心配はしてません。ズイマーが、5人の中でグムちゃんの次に好感度を上げやすいのは割と知られてません。

よし、長々と流れについての説明も終わつたので、後は屋上、図書室、家庭科室をローでしながら、ときおり体育館等でステ上升して、合間合間に一人とコミュ取るだけの変わり映えしない映像しかないので、加速していきたいと思います。

————— 加速中

いやー順調ですね。ステもいい感じになつてきたり、スキルも目標だつたものは全部取得できました。

加速中に何度もズイマーと決闘騒ぎを起こしてきましたが、ステータス的に今のズイマーに負けることはないので終わりよければすべ

てよしということで、今ではズイマーチゃんお気に入りの空き教室にリエータとホモくんが居座れるくらいには好感度も持ち直したみたいですね。いやー良かつたよかつた。

次回からいよいよレユニオンムームメント達がやつて来ます。楽しみですね！ それでは今回はここいらで終わりたいと思います。お疲れ様でしたー。



最初からアイツは気に入らない男だった。

「平民、お前が【冬将軍】と呼ばれている者か？ ……痩せた野良犬のような目をしているな、お前」

何も隠さず、自分の想いのままに顔に態度に全てを表す。

『ホステイモ・ムーヴ』。わざわざ、辺境の土地からチエルノボーヴ市 の何故か貴族よりも平民の多いペテルヘイム高校にやつてきた変人 貴族。転入早々に騒ぎを起こして、その傲慢な態度と誰にも媚びない 姿に、誰が呼んだのか【ウルサス貴族】なんていう蔑称がついた男。

当時、父親と上手くいかず、母親に胸を張れる生き方が出来ない自分に苛ついていたアタシにとつて、アイツの態度が無性に腹がつった。

「貴族様がアタシに何の用だよ」

アタシだつて馬鹿じやねえ、腹がたつた、それだけで貴族様を殴つたら退学だ。まるで此方を見透かすような見下した瞳がアタシの苛々を増やしたが、それだけだ。手を出そうとは思つていなかつた。「冬将軍と呼ばれる程の平民がいると聞き、気になつた、それだけだ。だが、見たところ期待外れのようだな。お前からは堕落して腐りかけている犬の匂いしかしない」

「――ツ！」

気づけば拳を振り上げていた。

仕方がないだろう？ 気に入らない奴に侮辱されたんだ。あの見下した目でアタシを見て、ため息すらこぼしがつたんだ。それだけ

でアタシが貴族様を殴る理由には十分だろう。

「遅いな。欠伸が出るほどに」

だが気づけばアタシが床に転がされていた。

これでも学校どころか市の中でも腕の立つ方だと思つていたアタシが、何も出来ずに天井を見上げていた。ウルサス人の男子5人に取り囲まれた時も、市の格闘技大会で優勝したとかいう腕自慢の奴が相手の時もアタシは全てに勝つてきた。なのに今は何も出来ずにいた。「所詮は野良犬か。お前に将軍などという大層な称号は不釣り合いだろう。今度から【冬野良犬】にでも変えておくんだな」

アタシが気を失う前に、ホステイモはそう言つて教室から出ていった。

次にアタシが目を覚ました時、アイツはもう何処にも居なかつた。アタシはその時初めて、本当の殺意つてのはどういうものかと知つたんだ。こんなにドロドロと湧き上がつてくるものなんだと。

それからアタシはホステイモを探した。だが如何いうわけか、アイツはなかなか捕まらなかつた。

日に日に苛立ちが募るアタシにとある情報が流れてきた。最近ロザリンがホステイモと一緒にいるところをよく発見されるらしいという話だ。

何故あの2人がつるんでいるのか知らないが、チャンスだと思った。ロザリンとは付き合いがあつた。その縁を利用してアイツ、ホステイモに喧嘩をふっかけた。

ロザリンはアタシとアイツが会つて喧嘩するたびに止めに入つたが、そんな事でアタシは止まらない。

何度も負けたが、それでも何度も喧嘩をふっかけた。

気づけば、アタシ一人だけのお気に入りの場所だつた空き教室にロザリンとアイツがいるのが普通になつた。いつからだつたかはわからぬ。

何度も喧嘩をするうちに殺意なんかどこかに消えて、あのクソみたいな態度もホステイモが悪意があつてやつてているのではなく、感情を隠すのが下手すぎてあんなつていると知つたからだろうか。

ある日、屋上でいつものように球粒の汗を流しながら剣を振るうア
イツに聞いてみた。

「ホステイモ、アンタはもう既に十分強えじゃねえか。何でそんなに
頑張つてんだよ」

ロザリンも気になつたのか、追従するようにうんうんと頷いてい
た。

ホステイモは此方を一瞥して、剣を見据えながら答えた。

「……僕は貴族だ。誇りあるウルサスの貴族だ。だからこそ常に帝国
の為に尽くし、国をより良いものへする為に努力しなければならな
い。僕が剣を振るうのは、悪意ある外敵からウルサス帝国を、そして
その財産であるお前達平民を守り抜くためだ」

アタシは開いた口が塞がらなかつた。ロザリンもそうだ。あの傲
慢で貴族様然とした男が毎日欠かさず剣術を修行し続ける理由が、ア
タシ達を守るためだという。

コイツの普段しか知らない奴が聞いたら誰も信じないだろう。だ
けどアタシ達は何故だかそれを疑うこととなかつた。その顔が、瞳
が、全く嘘をついていないと言わんばかりに真剣だったからだ。

「…………はつ。そうかよ」

思えばアタシはこの時から、ホステイモの事を気に入つたのかもし
れない。

part. 2

チエルノボーグ事変

白フードのテロリスト達に学校が襲われるアーカナイツRPGR TA、はーじまーるよー。

前回はホモくんの青春学園生活24時という風に一年間を加速しながらやつていきましたね。なかなか乱数にも恵まれて、目標のステータスとスキルを確保することができました。もうホモくんはただのウルサス貴族ではなく、鍛え抜かれた一端の戦士になりましたね。心なしか画面の中のホモくんも腕や足の筋肉がきらめいて見えてきます。

ホモくんのステータスは現在こうなっています。

【氏名】ホステイモ

【HP】1550

【攻撃力】550

【防御力】175

【術耐性】0

【物理強度】標準

【戦闘機動】普通

【生理的耐性】標準

【戦術立案】普通

【戦闘技術】標準

【アーツ適性】優秀

【スキル】剣術〇、ポーカーフェイス??、傲慢、不撓不屈、料理上手、サバイバル知識、貴族思考

基礎ステータスは目標のHP1500、攻撃力500、防御力150を超えており、スキルも及第点、ズイマーちゃんとの何度かの戦闘を経て、【戦闘技術】も普通から標準へとワンランク上昇してますね。うーん、これはつよい（小並感）。もう正直、このステータスだとそこらの白マスク相手なら楽勝ですね。まあ、私のチャートだと終盤に

出てくる

【凶悪】 系統の暴徒や流れ者なんかも相手にする可能性があるので油断はできないんですけども。

——何やら騒がしい。校門前に生徒達が集まっているようだ。

おつと、話しているうちに奴らがやってきたようですね。此処からは忙しく場面が変わっていきます。中にはR 1 8 Gな映像も出てくるので、そういうのが苦手な方はシークバーで飛ばすことを推奨します。

——白いフードを着た仮面の集団が他校の生徒を学校に連れてきている。あれは一体なんだ?

イベントも始まつたことですし、早いうちに校門の方へ移動します。この時にズイマー やリエータと合流する手もありますが、今回のチャートでは序盤は1人で動きます。

理由としては、メフィストのクソガキがわざとやつてくる食糧庫への放火を止めるためですね。2人と一緒に行動すると隠密行動が苦手なズイマーちゃんのせいでわりと直ぐにレユニオン側に動きがバレてしまいます。なので、最初の放火を止めるまで1人になる必要があるんですね。

食糧庫への放火を止めるのと止めないのでは、序盤のズイマー、リエータ、ロサ、イースチナ、グムのS A N 値が大きく変わります。まあ、食糧庫が燃えたから精神力が弱くなるのではなくて、その後の安全が危ない生徒達のデスゲーム地味た行いが原因なんですね。

ちょっと余裕がなくなつたら簡単に人を襲つて何もかも奪つてこうとするウルサス人、野蛮、野蛮すぎない…?

——自らを【レユニオン・ムーブメント】と名乗る奴らが喋っている。どうやら、この学校に他校の生徒をまとめて詰め込んでそのまま監禁するらしい。チエルノボーグ市を占拠すると息巻いているが、ウルサス帝国の大都市チエルノボーグ市で暴動を起こすなんて正気の沙汰じやない。

おつ、ホモくんに出来るだけ事態を把握させるために野次馬集団の最前列にまでやつてきいたら、1人のレユニオン兵士が近づいてきます。これは、記念すべきホモくんのレユニオン初遭遇場面です

ね。いやー感動的だなー。まあ、この後嫌というほど合うんですけどね（経験値要員）

どうやらホモくんの事が目についたようで、見せしめになんちやら、非感染者はどうちやらと如何でもいい事を喋っているので無視しましよう。此処で相手にしてレユニオン兵士をボコカスにしてしまうと、騒ぎを聞きつけて他のレユニオン兵士がわらわら出てくるので大人しく聞き流します。

といつても此処の選択肢は全て上を選んでおけば、何事もなくイベントが終わるので加速しても大丈夫です。

……何で等速に戻す必要があるんですか？

↓ ウルサス貴族としての責務を果たす時だ。

此処は大人しくしておこう。

……なんか、知らない選択肢を押してホモくんが目の前のレユニオンを斬り倒しましたね。

あれれ、おかしいなー？ こんな選択肢は、試走では一度も出なかつたんですけど。完全に動搖してますね、カーソルが荒ぶっています。

そう、この時は頭の中が真っ白になつてているイツチに変わつて説明すると、本来なら此処の選択肢は下の大人しくしておこうの一つだけだつたんですよ。でも何故か、本走では上の選択肢が追加で存在しています。私も色々とアーケナイツRPGwikiで調べたんですけども、どうやら【貴族思考】のスキルが影響したみたいです。はえー、すつごい。

あのさあ…ふざけるなッ！ ど、どうすんだよこれ、なあ！ お前のチャートボロボロじやねえか！

——騒ぎを聞きつけたレユニオンの暴徒共が集まつてくる。いいだろう、全員を地に伏せさせ、ウルサス帝国に仇なした事を後悔させてやる。

わー、画面いっぱいに白仮面がいるよー！ あーもうめちゃくちゃだよ。

しようがないので、此処でオリチャ一発動！ 中盤でするはずだつ

た経験値稼ぎをこの場所でします。鍛え上げられたホモくんの身体でレュニオンの玉無し野郎共を蹂躪してやりましょう！

レュニオン兵士達「3（0）人に勝てるわけないだろ！」

ホモくん「馬鹿野郎、お前俺は勝つぞお前!!（天下無双）」

というわけでディエル開始！ 対戦よろしくお願ひします。

このアーヴナイツRPG、普段はTRPGみたいに選択肢とステータスによる判定で進んでいくのですが、戦闘だけはRPGとは名ばかりのアクションなんですね。なので、戦闘ではプレイヤーの腕前が試されるのですが私のような凄腕プレイヤーなら、レュニオンの雑魚程度何の問題もありません。

えつ、なら何でさつき焦つてたのかつて？ そりや、あんたこんだけ派手に兵士を倒してたらくるでしょ。幹部が。

というわけで、レュニオン兵士を大体30人ほどノックダウンさせたところで戦闘一時中断。イベントが始まります。

この戦闘で大立ち回りをすると現れる幹部は4人います。

メフィスト、ファウスト、サルカズケントウリオ、そして、パトリフォットおじさん（デデドン）です。

この中で来られると面倒なのが、パトリオットおじさんです。他はまだワンチャン勝てるかも知れませんが、パトリオットおじさんはまづ勝てません。テラでジジイを見たら生き残りだと思え。

まあ、確率でいえば7割はメフィストかファウストのどちらかで、残りの2割9分9厘がサルカズケントウリオ、残りたつたの0.01%がパトリオットおじさんの出現率なので無用の心配でしょう！

——何があいつは。

——視線の先にいる槍と盾を携えたサルカズから感じる霸気が、ホステイモの身体に震えを起こした。

あつ……（察し）おじさんやめちくり。RTAって、何で想定外ばかり起きるんでしょうね（白目）

来てしまったのはしようがないので戦いましょう。パトリオットおじさん相手にあまり意味はないですが、強敵相手には武者へ職業を変えることは忘れないよう。

剣術○で強化されたホモくんのパワーでぶち転がしてやりますよ
!? オラア、喰らええ!!!

パトリオットは本気出すまで動きが鈍いので、ちまちまとヒットアンドアウエイでパトリオットのHPを削ります。け、削れていますかねこれ?

あつ、やベミスつた。

ひええー、一撃掠つただけでHP半分消し飛んだですが…。
このままだと負けてゲームオーバーなので、賭けに出ます。剣術○
込み込みの居合切りをカウンターで打ち込みましょう。タイミング
がシビアですが、これを当てないと勝機はありません。

パトリオットが近づいて大振りで槍を突き出します。ここで
す!

決まつたアー!このまま畳み込みます!えつ、ちよつ、まつ、は、反
撃が早いい。

……負けました。

いやー、流石元ウルサス帝国軍大尉ですね。ホモくんも高校生にしてはだいぶ強い筈なんですけども、10分も持ちませんでした!負けたのは仕方ないので、ホモくんの来世にご期待ください!

：おつ?どうやら殺されずに、レユニオン達に拘束されてから治療されています。パトリオットおじさんはまだフロストノヴァ姉貴が死んでいないので、心の贅肉が付いていますので、自身の手で子供を殺すことに抵抗でもあつたのでしょうか。

戦闘に負けて、尚且つ殺されていない場合、1日はペナルティで動けなくなるので食糧庫を放火から守るのはもう無理ですね。しゃあない切り替えていけ。という事で、目が覚めたホモくんが学校内で起きている凄惨な生徒達の姿を目撃するところで今回は終わりたいと思います。お疲れ様でしたー。



その日は、空がいつもより蒼い天気のいい日だつた。

アタシは、その天氣の良さと心地よい暖氣でついついお気に入りの空き教室で昼寝をしていた。ロザリンはスポーツの助つ人、ホステイモはいつもの所で剣でも振つているのだろうか。

アタシが夢うつつにそんな事を考えていると、外が騒がしい事に気づいた。

「うるさいなあ。人がせっかく気持ちよく寝てるつてのに何だつてんだ」

窓から外を見るうちの生徒達が集まつていた。ざわざわと心なしか不安そうに一箇所を見ている。

「なんだ…揉め事か？」

気になつたアタシは昼寝を中断して校庭へと向かつた。そして、そこに奴らがいた。アタシ達を地獄に閉じ込めた糞野郎ども。

【レュニオン・ムーブメント】。感染者による感染者の為の組織。

「お前達はもう此処から外に出ることはできない！」

そう宣言したテロリスト達によつて、アタシ達の日常は崩壊した。白いフードに仮面をつけた武装集団。中にはアーツを使う術師なんかもいて、抵抗する生徒を片つ端から鎮圧していた。

アタシも冬将軍なんて呼ばれてはいるが、戦闘訓練を受けた兵士じやない。明らかに頭のおかしい武装集団相手に1人で何か出来るなんて、少なくともただの女子高生のアタシには無かつた。正直にいうとブルつっていた。ビビつてたのさ。

少し前まで戦争のせの字も知らないような平和な学校だつたんだ。それが仮面の隙間から見える血走つた目で狂氣を振り撒く大人の集團に取り囲まれるんだぜ？ 恐くてわりーかよ。

横を見ると、いつのまにか近くに来ていたロザリンが息を飲む姿が見えた。アタシは釣られてその視線の先を見た。そして思い出したんだ。

ウチの学校にはアタシより何倍も馬鹿な奴がいた事を。

「——僕のいるこの学校で、この偉大なるウルサス帝国に弓を引く

だけに飽き足らず、我が帝国の財産である平民達に危害を加えるなんていい度胸をしているじゃないか」

人が宙を舞う。

ホステイモが剣を抜いた。

アイツを止めようと周りにいたレユニオン兵士が次々と吹っ飛ばされていく。

やつぱりアイツはすげえ。誰もが恐怖で動けない中で、アイツ、ホステイモ・ムーイだけがレユニオン達に戦いを挑んだ。たった1人で、自らの矜持ってやつのために。

ペテルハイム高校の奴らも、他校の奴らも、みんながホステイモの戦いを見ていた。冴え渡る剣技で、テレビに出てくるヒーローのように敵を倒していく。

「……頑張れ！」

「……やつちまええ！」

「そうよ、頑張つてえ！」

貴族も平民も、全員が腕を上げてホステイモを激励する。その声へ応えるようにホステイモの動きは速さを増して、もうレユニオンの兵士共ではどうしようもできないくらいに暴れていた。

このまま、どうにか出来るんじやないか。全員がそう思つたその時、アレが現れた。

「——良き、戦士だ。若い、ながらも、筋、がいい」

遠くから、アタシでも一目でわかつた。アレはヤバイ。

周りの兵士達が【パトリオットの大旦那】と喜びの声をあげる。

先ほどまでの勢いが嘘のように皆んなが押し黙つた。ただそこにあるだけで、アレの圧がアタシ達の心を抑えつけたんだ。

「…行くぞ」

でもやつぱりホステイモだけは折れなかつた。剣を鞘に戻して、体を深く沈めてアイツは構えた。屋上でアイツの剣をよく見ていたアタシも見たことのない構えだつた。

それを見て、パトリオットという男は何もしなかつた。まるで何の弊害もないよう悠然とホステイモの間合いへ踏み込んだ。

そして、その日で一番短く、一番濃密な数分間の攻防が始まつた。

「——強き、剣だつた。この、幼き、勇士に、治療を」

戦いは崩れ落ちるホステイモの姿で終わつた。あのホステイモが一方的にやられた。アタシにはあまりにも衝撃的な光景だった。

アタシには、レユニオンの兵士達に何処かへ連れて行かれるホステイモを見送ることしかできずにいた。

それから、アタシ達は他校の生徒達と一緒にペテルヘイム高校の中に監禁された。そして直ぐに、食糧庫の2つある内の1つが火災で燃え尽きた。

もう一つの食糧庫は他校の貴族達が独占しやがつた。外に出られない閉塞感や不安を抱えた生徒達によつて学校内での治安は荒れた。アタシもロザリンと一緒にいつもの空き教室でいつ解放されるかもわからぬまま、時間を貪つた。

そして、アタシが食糧を確保するために外へ出たら、そこにはホステイモがいた。

無事だつたのか！

嬉しくなつてアイツへ直ぐに駆け寄つたアタシを見るホステイモの瞳には、かつての強い意思を感じさせる光は無くなつていた。

そこにアタシの知るホステイモはいなくなつていたんだ。

part. 3 地獄の始まり

学園サバイバルゲームなアーケナイトRTA、はーじまーるよー。
前回は、貴族思考スキルによるアクシデントでレユニオンの兵士達
相手に大立ち回りした後にパトリオットの大旦那にボコられた辺り
で終わりましたね。

正直、パトリオットおじさんが出てきた辺りでこのRTAの終わり
を感じました。だつてあんなのに勝てるわけないじゃん。

本編の方でも1人で本気のパトリオットおじさん相手に安定して
勝てるオペレーターはいませんからね。そんな化け物相手に多少鍛
えている程度の高校生貴族が勝てるわけないだろ、いい加減にしろ！

えつ、でもお前の相手したパトリオットおじさん本気ですらない
じやんですか？…………さてさて、話を戻して今回の動画では、つ
いに始まつた学園サバイバルパートでの動き方について説明します！

基本的にこの時期にできることは多くありません。平民から食糧
奪うか、貴族から食糧奪うか、レユニオン兵士から食糧奪うかです。
お前、食糧ばつかじやねえかって？ 馬鹿やろう！ 人はメシ食わ
ないと死ぬんですよ。ご飯食べないで放置すると精神や体力が衰弱
してろくに動けなくなります。

その結果、何が起こるのか。

倫理観が崩壊した生徒達に食い物にされてしまします。

守る筈だったズイマーやグムちゃん達が酷い目に遭うんですね。
泣き顔のグムちゃんやイースチナが下卑たウルサス男子に服をひ
ん剥かれ、抵抗するズイマーやリエータが殴られたり、それを止めよ
うとするけどご飯を食べてなくて力が出ずには呆氣なく捕まつて酷い
ことをされる仲間を見る事しか出来ないイベントシーン作つたやつ、
人の心ないんじやねえの？

なので、そんな悲しいR18シーン防止の為に食糧を集める必要が

あるんですね。

今現在、ホモくんのいるペテルヘイム高校はメフィストのクソガキが命令したレユニオンの兵士達によつて食糧庫の一つが燃やされました。

私の考えていた本来のチャートなら、今ごろはホモくんが食糧庫放火を阻止して平和な時間を少し保つていられた筈なのですが、パトリオットおじさんに戦闘不能にされてだいたい丸2日ほど動けなかつたので、現在ペテルヘイム高校はSAN値の減つた生徒達によつて荒れています。

ホモくんはレユニオンに治療を施された後、また学園内へ放り込まれたので、これから食糧集めに動こうと思ったのですが、なんかSAN値が大分減つていて行動が無くなっています。ええ、なんで？

ちよつと目の前で他校の貴族が平民から食糧奪つたり、ペテルヘイムの生徒が下級生を殴つて食糧奪う姿を見ただけで精神弱スギイ！
お前の生理的耐性は飾りかオオン！？

これじやあホモくんが通りかかつたガチムチウルサス男子にトイレへ連れ込まれてしまします。どうしましようかねこれ。

ん？ 遠くから誰かが近づいてきますね。さつそく貞操の危機ですか、本当に運が悪、いや、あれはズイマー、ズイマーちゃんじやないか！

どうやらズイマーちゃんと食糧庫火災イベントが起ころる前に仲良くなつて（好感度50以上）いると起ころる、空き教室への勧誘イベントが起きたみたいです。想定より好感度稼げてますね。

動こうとしないホモくんを無理矢理ズイマーちゃんが空き教室へと連れて行つてくれてますね。ズイマーちゃん最高！ 貴方達もズイマーちゃん最高と言いなさい。

空き教室では、リエータが待機してました。本来ならまだこの時期にはいないのでですが、ホモくんが関わつたことによつてズイマーとリエータの親密度も上昇していただからです。

基本的に学園サバイバルパートでは、ズイマー達と行動を共にするルートを選ぶとこの空き教室が拠点となるので、レユニオン襲撃イベ

ントが始まるまでに物資をここに置いておくと後々楽になります。食糧関係は頑張って略奪してねというゲームの都合なのか、いくら持つてこようどその時いる人が全部食べてしまうので事前に貯めて置けません。

この現象により、本作では主人公が災害に備えてせっせと集めておいた食糧を全てズイマーが食べてしまい、通称【ズイマーちゃん胃袋 ブラックホール】イベントが起きるんですね。1人で一ヶ月以上の食糧全て平らげるとかどうやつてるんでしょうか。

今、空き教室にある物資は机と椅子、簡単な料理器具と少量の娯楽品くらいです。これから、イースチナとグムが他の生徒を引き連れて現れることを考えると、食糧消費の人数がリエータとホモくんの分が増えるので何もしないと直ぐに食糧が枯渇します。

なので早いとこ外に出てまだ残っているであろう食糧確保ポイントは行きたいのですが、ホモくんがやる気を無くしていますね。うーん、どうしよう。

何も出来ずに夜になりました。ご飯はズイマーとリエータが拾つてきた乾パンです。お前、女の子にご飯恵んでもらつて恥ずかしくないの？

現在のホモくんの状態異常である、SAN値が1度に大きく失われる確率で起こる【無気力】状態は、基本解除するにはSAN値の自然回復を待つか、医療系オペレーターに治療してもらう、または【精神分析】スキル持ちに助けてもらうしかありません。

何でこんなにSAN値が減ったのかwikiの方で私も調べてみたのですが、どうやら【傲慢】と【貴族思考】のスキルは条件を満たすとSAN値を大幅に削ってしまうようです。【傲慢】の方は負けられない戦いで敗北すると発生し、【貴族思考】の方は条件がいくつかありましたが、要約すると貴族としての自信を揺らがす何かが起きた時に発生するみたい。

まあ、レユニオンが出ていつて天災が来るまで学校からは出られないでの頑張つて空腹に耐えて、確率で起こる襲撃イベントが起きないように祈りましよう。

ホモくんが教室でニートしている間に何日かが過ぎました。ご飯はズイマーとリエータがせつせと集めてきてくれてます。女子高生のヒモになるのは楽しそうですねー。

もう少しでイースチナのグループが避難してくるのでそれまでには立ち直って欲しいんですけど、まだ時間がかかりそうですかね？一応、毎夜のコミュ時間にリエータが励ましに来てくれるの少しほ回復してくれますが、これじゃあ間に合わなそうです。

おや、今夜は珍しくズイマーがホモくんへ近寄つてきました。ホモくんを教室へ連れてきてからコミュしようとしても避けられていたのですが、何かのイベントでしょうか？

あつ、ズイマーがホモくんを殴り飛ばしました！ 慌ててリエータがズイマーを止めますがどうしたんでしょうか。もしかして1人だけニートしているホモくんにキレたのでしょうか。

この時加速してたので話の内容は分かりませんが、次の日ホモくんが立ち直っていたのでOKです！（につこり）

いやー、ホモくんが立ち直ってくれておじさんも嬉しいよ、うんうん。これで今日から毎日平民や貴族から食糧奪おうぜ！

というわけで今回の動画はここまでにしたいと思います。お疲れ様でしたー。



ホステイモは強い。

それは戦いにおけるそれだけじゃない。心の強さ。たとえ、自身以外の全てがその在り方へ良くない視線を向けてこようと、ホステイモは自身の傲慢なまでの貴族としての矜持を持ち続けていた。

だからアタシは、ホステイモは多分何があつても折れることはなく、負ける事もなく、いつものように平民だ何だとアタシやロザリンに悪態をつきながらそのまま変わらないのだろうと漠然と思つていた。

でも違つた。

ホステイモも人間で、敵わない奴がいて、折れることもあるんだ。

目の前で雨に打たれて、泥に塗れて、いつもなら澄ましたように傲慢な顔をしたホステイモは目の前にいるアタシを見ないで、光を失った瞳で虚空を見ていた。

アタシは何も言えなかつた。

取り敢えず、アタシはホステイモに肩を貸してロザリンの待つ空き教室へ戻つた。ロザリンもホステイモの姿に驚いていたけど、アタシ同様に何も言えなくなつていて。普段は騒がしいくせにこういう時に黙つてしまつたら意味がないぜ。

それから、空き教室でのアタシ達3人の生活が始まつた。

ホステイモは部屋の隅で無氣力に座り込んでいて、アタシ達が集めてきた乾パンなんかも全然食べてくれなかつた。ロザリンはそんなホステイモの様子にまいつたのか、夜になつてアタシが寝たふりをしているとホステイモに近づいて何かと喋りかけていた。

ロザリンの無理に明るく振る舞うような話し方にホステイモは何の反応も見せなかつた。

そんな日が何日か過ぎた。

ホステイモは依然として飯もろくに食わねえし、日に日にロザリンの元気も無くなつていつて、いつものアタシ達の居場所なのにまるで見知らぬ土地に来たかのような居心地の悪さをアタシは感じていた。

——あの時、ホステイモを助けに行かなかつたのが悪いのか。

何もしてないと、そんな考えがいつも頭によぎる。だから日中、アタシは食糧探しなんかで動き回つた。何も考えなくていいように。夜は疲れて早く寝られるように。

空き教室へ帰つてきて、部屋の隅にいるアイツの瞳を見てしまうと心の奥がズキリと傷んだ。

ある日の夜、いつものようにロザリンが話しかけるが何の反応も示さないアイツとその姿に涙目になつていてロザリンを見て、アタシの中で何かが爆発した。

「お、おい。どうしたんだソニア」

戸惑うロザリンを退かして、ホステイモの襟元を掴んで強引に掴み

上げた。後ろからロザリンの静止の声が飛んでくるが、アタシは止まらなかつた。

「いい加減にしろよテメエ！ いつまで死んだ目してやがんだ！ アタシがッ、アタシが悪りいてのかよ！ ちょっと前までのアンタはそんな目をする奴じやなかつただろうがよ！ 一回負けたくらいでウジウジしてんじやねえよ！」

こんな事されてもホステイモは無抵抗だつた。

前までのホステイモなら「平民が生意氣だぞ」なんて悪態をついて手を振り払つていた筈だ。そして何処までも傲慢な笑みを浮かべる、そんな奴だつた筈だ。

「くそがつ！」

ホステイモを殴りつける。いつものアイツなら避けられた拳なのに、ホステイモは何も言わずに吹つ飛ばされた。

「おいソニアいい加減にしろつ！」

ロザリンがアタシを羽交い締めする。

「…………僕は、負けたんだ」

ホステイモが喋つた。

「ただ負けたんだじゃない。ウルサス貴族としての誇りを示す、負けてはならない戦いで僕は何も出来ずに敗北した。そればかりか、国土を汚し、守るべき平民達を傷つける敵に治療まで施され、おめおめと生き残つてしまつた！」

今まで我慢していたものが溢れ出すかのように、ホステイモは言葉を吐き出す。

「学園に戻つて、あれらを見た。守るべき平民から食糧を奪う貴族達、不安や貧しさから殺し合う平民達。僕が負けたせいで、あれだけの悲劇が起こつた！ いや、今も起こつてゐる！ もう僕はダメだ。貴族としての矜持も、守るべきものも無くした僕に生きる理由は無い」

勝手なことばかり言いやがる。こつちの気も知らないで、生きる理由がないだと？

「生きる理由がないなら作つてやるよ、ホステイモ！」

アタシはホステイモの目を無理矢理アタシの方へ向けさせて叫ん

だ。

「アタシがアンタの生きる理由になつてやる！ アタシは正真正銘た
だの平民だ。そんなアタシをアンタに守らせてやるよ！ これは契
約だ。お前の矜持も守るものも全部アタシが担つてやる。代わりに
アタシがお前を守る、文句あるか？」

「は？」

ホステイモが驚きの顔でアタシを見る。やつとアタシを見やがつ
た。

「守る人数が足りないってんなら、ロザリンも付けてやる。【冬將軍】
と【夏將軍】を守らせてやるつて言つてんだ、光栄に思えよ」

「……お前はやはり馬鹿だな、平民」

「んだと？ もう一回言いやがれこの野郎！」

ホステイモがニヤリと笑い、顔を掴んでいたアタシの手を払う

「口を慎め、僕を誰だと思っている。誇り高きウルサス貴族、ホステイ
モ・ムーアイだぞ！ 良いだろう、僕の貴族としての矜持にかけて貴様
ら2人をたとえ天災がこようと守り抜いて見せようじやないか！」

いつもの憎たらしい傲慢なホステイモが帰ってきた。

これでアタシもロザリンも今日からはゆっくり寝られそうだ。そ
う思つた。

頼れる仲間が増えていくハートフルなRTA、はーじまーるよー。

前回はメンタルよわよわになっていたホモくんをズイマー先生が闘魂注入してくれた辺りで終わりましたね。あのイベントが無かつたらワンチャンこのRTA終わつてました。

おかしいな、このRTA割と簡単な部類のはずなのに何でこんな状態になつているんですか？ うわっ…私のチャート構成、下手すぎ…？

まあ、運のなさを嘆いても仕方がないのでさつさと続きを始めましょうか。今回は前から言つて いるように食糧集めをやつていきたい思います。

と言つても、本当に他の生徒から直接略奪するのは最終手段です。理由は大きく2つあります。

一つはホモくんのSAN値が減つっていくからということ。これは、ホモくんのメンタルがよわよわだからという事ではなくて、ただ単に仕様です。子供を虐殺してまわる快楽殺人者みたいなよほどの外道ロールプレイするようなキヤラでもない限り、基本的に略奪なんかの犯罪行為をするとSAN値が下がつてしまします。

前回起こつた無気力状態のよう、SAN値が減るとプレイに対して様々な制限がかかる状態異常が発生するので出来ればSAN値が減少するようなことは避けておきたい。

もう一つは、主要キヤラから的好感度が駄々下がりするからです。特にイースチナがヤバい。彼女は略奪行為そのものが大嫌いで地雷そのものなので、本人の目の前でやるどころか過去にやつていたのがバレるだけで、もう攻略不可能になります。

他のキヤラ、グムやズイマー達は大きく好感度が下がりはしますがまだ挽回できます。ただ、イースチナだけは例外で、一度別のデータで彼女の前で略奪をしてみたのですが、だいたい好感度が100から100になるくらいには嫌われました。流石、親友を略奪大好き貴

族グループへ加わろうと進言しただけで殺す女は違いますね。

とまあ、この2つ、主に後者の理由の大きさから略奪行為はNGとしています。ではどうやつて物資を集めのか、既にほとんどの物が口サの率いる貴族グループか多数に存在するはぐれ貴族グループやそれ以外の生徒達によって拾われています。

本来なら初日にホモくんを動かして色々かき集められたのですが、もう過ぎたことに文句を言つても始まらないので、ここでとあるスキルを活用します。そう、【サバイバル知識】のスキルですねー。これで生えている野草なんかの食べられるものを採取できるようになるので、それでせつせと草やキノコ、虫なんかを集めます。

まだ、他の生徒がすぐに食べられる乾パンなんかの食糧に目を向けられている今がチャンスです。口サのグループが爆破されると本格的に食料がなくなるので、そうすると皆もなりふり構わなくなり、学校にペんぺん草も生えなくなることでしょう。

袋がパンパンになるくらい集められたら次の場所へ向かいます。目的地はペテルヘイム高校の地下、旧天災用防空壕ですね。

このペテルヘイム高校、他の生徒達に取られない物資確保ポイントである防空壕が何箇所かあります。そこは主人公キャラが行かない限り、必ず何かしらの食糧があるので忘れずに行きましょう。

恐らく救済処置としての場所なのですが、作中を通してヒントが一切ないのはクソだと思います。こういう場所を発見してくれた先駆者様達には頭が上がりませんね！

というわけで、目的の場所についたので楽しい物色タイムと洒落込みましようか。おっ、神アイテム『塩』がありました！ 他にも『砂糖』や『保存肉』なんかも見つかってます。これは嬉しい結果ですね。調味料の塩と砂糖のアイテムは料理上手のスキルと合わせれば大きくS A N 値を回復する料理が作れるので、攻略において大変助かります。

これだけあればリエータとホモくんの分が増えてもあるくらいには食糧の備蓄に余裕ができました。さつく帰つてズイマーちゃんに昨日のお礼として料理をご馳走してあげましょ。

――空き教室の前に何人かの生徒が立っていた。その中の1人、アンナと呼ばれている水色の髪をしたウルサス人の少女がソニアと話している。

おつ、どうやらイースチナ達がやつてきたみたいですね。ホモくんが回復した後に来てくれてよかったです。もし、その前に来られていたら寝込みを襲われていたかもしませんからね。

誰について？ イースチナの連れてきたモブ共にですね。

こいつら、イースチナとグムと一緒にいるのが不思議な程度にはクズですからね。助けてもらつておいて、人の寝込み襲うとかどういう神経してんだ？（1敗）

何やら交渉が難儀しているみたいなので、ズイマーちゃんの背中を後押ししてあげましょう。ほらほら、せつかく幼馴染と再会できたんだからもつと仲良くして、仲良くしろ！

よしよし、何とか上手くいつたみたいです。我らが拠点に人が増えました。イースチナ、グム、その他福本クズキヤラなウルサス人生徒5名！ イースチナとグム以外は帰つてどうぞ。

出鼻は挫かれましたが、今日は仲間が増えた記念日だ！ という事で集めてきた物資をズイマー達に見せびらかしましよう。ほらほら、もつと喜んで良いのよ。あつ、虫を詰め込んだ袋がズイマーちゃん窓から投げ捨てられた。

ささやかながら歓迎会ということで、新しくやつてきたグムちゃんと一緒に簡単な料理を作つてあげましょう。ここ最近は、乾パンと缶詰ばかりだったズイマーとリエータの2人に美味しいものを食べさせてあげなきや（使命感）

優秀なRTA走者は好感度稼ぎも忘れません。グムちゃんは一緒に料理したり、何か作業を手伝つてあげるだけで好感度がガンガン上がる天使な良い子なのでいっぱい構つてあげましょう。

料理が出来たので皆に振舞いました。料理上手スキル2人で作った飯は上手いだろう？ 久しぶりに見るズイマーちゃんの笑顔が眩しい、フラツシユ！

「貴方は、レユニオン相手に戦った貴族の方ですね。無事だつたよう

で嬉しいです。これからお願ひしますね」

——ああ、僕はあの平民が助けようと前達に手を差し伸べたら、あれのついでに助かるくらいはしてあげよう。

——アンナという女はその答えに満足したのか、微笑むと皆のところへ戻つていった。

よし良い感じですね。このまま口サちゃんグループ大爆発まで楽しく仲良しグループを継続していければ良いのですがね……。

イースチナ達が加わつてから3日が経ちました。予想通り、イースチナについてきていたモブ数人が学校内で一番の勢力であり、食糧庫を占拠している貴族グループに加わろうとイースチナに言い寄りますね。何やつてんだあいつら……

早いとこ追い出さなきゃ行けませんね。というかズイマーチちゃんもいる空き教室内でそういう話やめてもらつていいですか？　あーもうめちゃくちゃだよ（部屋の空氣）

——皆が寝静まる夜の暗闇の中、複数人が立ち上がり動く音が聞こえた。

おつ、ズイマー襲撃イベントじゃないか。

これはズイマーがイースチナ達を仲間に加えた後確率で起こるイベントなのですが、内容としては口サの貴族グループに入りたいモブ達が貴族と敵対しているズイマーを襲つて口サ達への手土産にしようとするものです。

人間の屑がこの野郎、二度とこの教室にいられないようにしてやる。

ホモくんＶＳ男女混合ウルサス生徒3人の戦闘開始です。

この戦闘は相手を殺してしまふとイースチナとグムから怖がれるようになります。だから、剣術〇スキルの【峰打ち】を取得しておく必要があつたんですね。

——鮮血が飛び散る。僕は剣で3人の生徒を斬り殺した。殺しは初めてだが、やはり最悪の気分だ

ん？　あれ？　3人死んじやつてるじやん。なんで？　なんで？

なんで？ スキル発動してないじゃーーーん！ スキルを覚えたあとステータス欄だつて確認したし、今だつて、スキル持つてたじゃーーーん！

このクソゲー！ 戦闘システムまでイカレてるんじやないだろうな！

…まさか、あつ、確認したらスキル欄から装備するの忘れてました。 そういうえば【峰打ち】つてパツシブススキルじやなくて装備しないと発動しないアクティブスキルでした。

……。今回の動画はここまでにしたいと思います。それでは、お疲れ様でしたー！



「誰だお前達は」

アンナお姉ちゃんと落ち着ける避難場所を探して、【冬将軍】、お姉ちゃんからはソニアと呼ばれる女の子と交渉していた時、後ろからその人は現れた。

手に、何故か大量の草とキノコ、そして大きめの麻袋を2つ抱えて立っていた男の子。その人物をラーダは知っていた。

いや、正確にいうならばラーダだけではなく、その他の人たち全員が彼のことを認知していた。何故なら、彼がレユニオン襲撃の初日に起こしたとある騒動を全員が目撃していたからだ。アンナお姉ちゃんがその行動に感動するかのように震えていたのを覚えている。

だけど彼はあの化け物のように怖い人から槍で刺されて、そのままレユニオン達に連れて行かれた筈だ。生きているとは思つていなかつた。

そのことに驚いていたのはラーダだけではなくつて、特にアンナお姉ちゃんなんかは目を見開いていた。

彼はラーダ達を一瞥すると荷物を抱えて、ソニアに「お前の好きにしろ」と言うと部屋の中へ入つていった。それから少しして、ソニアがため息を吐いてラーダ達を迎え入れた。

中に入るとさつきの貴族の彼とあともう1人女の子がいた。後から聞いたけど、ロザリンという名前で明るくて、他の2人に比べたらラーダは話しやすい人だなと思った。

それから少しして、部屋に入るため交渉材料として言つた料理を作ることになった。驚いたのは、簡単だけど料理器具があつたこと。あと、何故か貴族の彼、ホステイモ・ムーイ君が料理を手伝ってくれたこと。

「平民だけに料理を作らせると何を入れるかわかつたもんじやないからな。僕が監視してやる」

貴族が料理をするだけでも驚きなのに、ラーダと同じくらい手慣れた動きで料理する姿は幻覚でも見ていいのかと感じるくらいだ。だつて、ラーダの知る貴族様つてただ無遠慮に座つてご飯が来るのを待つだけのような、プライドが高い人が多かつたから。

それから料理ができて、皆に振る舞つた。

彼が持つて帰つてきた塩や砂糖のおかげで味に広がりが出来て、この学校に来てから初めてまともな料理と呼べる物ができたと思う。

皆が笑顔でご飯を食べる中、ラーダにはまた新しい驚きができた。

彼は知らないと思うけど、ソニアもロザリンもアンナお姉ちゃんも皆知つている。彼は感情が顔に出やすくて、美味しいご飯を食べている時の彼は、こちらも思わず笑つちやうくらいの満面の笑みで食事を続けるんだ。

これは彼には教えていない。教えると無理に表情を隠そうとしそうだから、彼だけ知らない私達【ウルサス学生自治団】だけの秘密だ。彼は優しい。ラーダが教室で暮らすようになつて何かと困つているとさり気なく助けてくれる。お礼を言つても捻くれた返事しか返さないけど、それが個性だからしようがない。

彼は優しい。ラーダがティモ君とあだ名で呼ぶことにして彼は少し文句を言うだけで許してくれる。本来なら平民のラーダが貴族様をあだ名で呼ぶなんて許してくれるのはないのに。

ティモ君は優しい。全部自分が背負おうとするところとか、誰かの弱さを無言で支えようとすることとか、こつちが泣きそうになるく

らい優しい。それがティモ君の誇りだとしても、ラーダは、グムは頼つて欲しかった。

ある日の夜、事件は起こつた。

ティモ君がラーダ達の仲間だつた人達を殺した。理由は彼女達がソニアを殺そうとしたから。

「僕が殺した。僕のために殺したんだ」

ラーダは知つていて。ティモ君が表情を無理に隠して強がる時、剣を握る手が震えるくらい動搖する時、いつもティモ君の瞳が悲しみに溢れていることを。

そして、そんなティモ君の姿を見たソニアがより悲しみに瞳を曇らせてることを。ラーダは知つていて。

1人だけ仲間はずれがいるウルサス学生自治団なRTA、はーじまーるよー。

前回は新しい仲間の加入や楽しい歓迎会なんかのイベントがあつて明るい感じで終わられましたね！ いやーよかつたよかつた。

ようやつと仲間が揃つてきましたので、これからどんどん好感度を稼いで行きたいと思います。学校を脱出した後つて好感度を上げるイベントよりSAN値を下げるイベントの方が多くて、そのケアに追われるから好感度云々の話じやなくなつてくるんですよねえ。

まあ、暗い話は後にしてさつそくやっていきましよう！

これからやつしていくことを視聴者さんに説明すると、基本的に好感度を上げる行為は3つあつてですね。

一つ目がこの動画ではちよくちよく起きている、イベントによる好感度上昇です。

はつきりいってこれが一番うまあじです。決められた選択肢選んでおけば大きく好感度が稼げるの、もしイベントが来たら選択肢を間違わないようにちゃんとチャートを読んで暗記しておきましよう（64敗）

二つ目が、こちらもこの動画で既に何回か行なつている、自発的なコミュニケーション行動による好感度稼ぎです。こちらは3つの内で一番稼げる量が微々たるものなんですが、それでも何も持つてなくとも運が絡まずに、地道に好感度を上げることが出来るのである意味一番重要なものかもしません。

こちらは1日に行えるコミュニケーション行動は回数が決まつていて取りこぼしのないようにしましよう。まあ、基本夜に行なうようにすれば他の行動チャートとどちらか混ぜになつて忘れるなんてことが無くなると思うので、あまりRTAやつた事がないよーという人は試してみてください。

三つ目が、私がこれから行なうものです。これはギャルゲーだけでは

なく、古くから続くソーシャルゲームなんかでも鉄板の好感度稼ぎ。その名も【アイテム貢ぎ】です！

やっぱり人間、欲しいものをくれる人を好きになるもんなんですねー。私も学生時代、好きな子に沢山貢いだんですけど、好感度の上昇しなかつたんですけどバグなんですかね？ かなしいなあ。

まあ、そんな話は置いておいてアイテム搜索にさつさと、行くぞ！

今回私が探すアイテムは、リエータの好きなロツクバンド系の雑誌、グムの料理本やエプロン、イースチナは本なら何でも良いです。ズイマーは何を上げても貰ってくれるので、適当に見繕いましょう。なので最優先で行く場所は、本が沢山ある図書室と言いたいところなのですぐ、既に生徒達の手で燃やされてしまっているので別の場所に行きましょう。お前ら、何でもかんでも燃やすのやめないか？

じやあ本が集められないじゃん、どうしてくれんの？ とお怒りの視聴者さんも多いと思いますが落ち着いてください。確かに纏めて本を入手する事はもう既に難しいです。しかし、これらのアイテムを集めるのは別に図書室があつてもなくとも問題ありません。

まずはグムの料理本は家庭科室で拾えます。ついでにあればですが、ここでマッチなんかの火をつけるアイテムを回収しておきましょう。後々外へ出た際の暖を取る際に使います。

次にイースチナとリエータの分ですが、生徒達のロツカーリを漁りましよう。食糧なんかはもう他の生徒達に取られて見つかりませんが、娯楽品の本なんかは見向きもされないので必ず誰かしらのロツカーリに入つてます。こんな時に女生徒のロツカーリ漁る姿をグループの女性陣に見られたらホモくんどうなるんでしょうね（暗黒微笑）

よし、これでグムの料理本とリエータの音楽雑誌、イースチナへの推理小説が集まつたので、ズイマーへ上げる分は食糧探索のついでに探ししよう。ズイマーちゃんは手のかからない良い子ですね！

——平民の生徒が貴族から食料を奪われそうになつていい。
ん？ なんかアイテム集めてたらイベントが始まりましたね。口
スいので適当に加速しよう。

「この俺をナターリア様が率いる貴族グループの者と知つての狼藉か！ 貴様、覚えていろよ、目にものを見せてやる！」

——殴り倒した貴族が捨て台詞を吐いて何処かへ去つていった。黄色のリボンをつけた平民がお礼とぬいぐるみを渡してきたが、僕は気分が悪かったので先を急いだ。

なんかホモくんが貴族をボコしてしまいました。よくわからないイベントでしたが、クマのぬいぐるみを手に入れたのでこれをズイマーちゃんへの手土産にしましよう。

さあ、ホモくん様のお帰りですよー。おうおう、ぞろぞろと集まつてきやがつて卑しい子達だ。ほらほらこれが欲しかつたんだろー？ お礼だけかー？ 何か足んねえよなあ？

——ラーダ達が欲しがつていた物を手に入れた。渡しておこう。

おほつ、グムちゃんが抱きついて喜んでいますね。あゝ無邪気な好意で心がぴょんぴょんするんじやー。リエータとイースチナも嬉しそうですね。

ズイマー以外の全員にお土産を配り終わりました。1人よそよそしくしているズイマーちゃんには、夜にあげましょう。流石に皆の前でクマのぬいぐるみを上げると、彼女のイメージが、ね？

よし、夜になつたのでズイマーちゃんのところへコミュしに行きますよー、行く行く。

ぬつ、イースチナとズイマーが話していますね。近づきましょう。どうやら【ウルサス学生自治団】結成イベントのようですね。このイベントに関わるとウルサス学生自治団の名前を変えることや自身をグループのリーダーへと変える事ができます。因みに現在のリーダーは決まつておらず、各々が生き残るために頑張るだけのグループですね。

このシナリオをする人の中にはこの命名イベントでR18な名前に変えて、グム達に呼ばせる変態がいるみたいです。世の中は広いですねー。

特に案もないのにグループの名前は、デフォルトの「ウルサス学生自治団」に決まりました。

おつ、ズイマーとイースタナからの要請でグループのリーダーになりました。これでグループに所属する人間へ好感度に関係なく命令する事ができるようになります。まあ、強制力はあまりないので無視されることも多いですが。この命令形で彼女達へエツチな命令をした者は手をあげなさい（5敗）

イベントも終わつて2人とも寝うなので、その前にズイマーちゃんにクマのぬいぐるみをあげましよう。これで全員へアイテム貢ぎ出来ましたね。

それでは、今回の動画はここまでにしたいと思います。それでは、お疲れ様でした！



私が初めて彼を知ったのは、彼、ホステイモ・ムーアイが私と出会うよりも早い。

レュニオンが私達の学校を襲撃して、ソニアのいるペテルヘイム高校へと連行したあの日。絶望と不安を抱えながら、校庭に集められた私は見た。

私達の高校で暴虐の限りを尽くしたレュニオン・ムーブメント達を次々と薙ぎ倒していく、たつた1人の男の子を。

歳は私と変わらないだろう。なのに、己の矜持と意思だけで彼は立ち向かつた。レュニオンの武器で、アーツで、何度も傷つきながら、彼は戦つていた。

まるで私が読む小説に出てくる主人公のようだと思つた。

皆が恐怖に包まれる中、悠然と立ち上がるヒーロー。私は彼の姿に重ねてそれを見た。

だけど、現実はいつも残酷だ。

あの禍々しい空気を纏つた盾と槍を持つサルカズ。「パトリオット」と呼ばれた存在が彼を槍で突き刺して、そのまま連れて行つた。

その後、彼らは学校を取り囲んだ。私たちを逃さないようにな。

私はラーダを、頼ってきた仲間達を彼のように守らなければと頑張った。だけど私は弱くて、すぐに駄目になつた。私一人では、混乱で暴れ回るようになつた他の生徒達から仲間達を守れない。

それから少しして安全な、休める場所を探した。

何とか見つけた場所には先客が居て、なんとか私達にも居場所を分けてくれないかと交渉をした。そこで昔、幼馴染だつたソニアに出会つた。彼女は昔のように不器用だけど優しくて、私たちを受け入れてくれた。

そして、ちょうどその時彼に再会した。ホステイモ、彼は無事でいてくれて、ソニアと一緒にいたのだ。

私は安堵した。これで仲間達は大丈夫だ。頼れるソニアだけではなく、ホステイモもいるなら私がいなくても安心だと。

部屋に入るとソニアとホステイモだけではなく、ロザリンという子もいた。ロザリンはこんな状況なのに明るく振る舞つて場を明るくしてくれる良い子で、ラーダと一緒に教室の空気を温かしてくれた。

此処なら生き残れる。全員で生きて帰れると思った。もう帰れる場所など無くなつていたというのに。

私達がソニア達のグループに入つてから少しして事件が起きた。私の仲間達がソニアを殺そうとした。理由は、第4高校の貴族が率いる貴族グループへの手土産にするため。ソニアは貴族グループと対立していたからだ。

そして、ホステイモが私の仲間達を殺した。しようがないことだ、先に殺そうとしたのは彼女達なのだから。だから、何かを堪えるような、そんな顔をしないで欲しかつた。

その日以降、ソニアとホステイモの様子がおかしくなつた。ソニアはホステイモに対してよそよそしくなつた。ホステイモは何か生き急ぐように物資探しを遅くまでやるようになつた。私達の空き教室へ帰つてくるのはいつも一番最後だ。

どうにかしなければと思いながらも、私には解決策が出てこなかつた。何のために沢山の本を読んだのか、私は役立たずだ。

ホステイモが仲間達を殺してから毎日、親友のヴィ力が貴族グループへ入ろうと言つてくるようになつた。このままじや仲間達のようにホステイモやソニアに殺されるかもしないと彼女は言つていたけど、ソニア達は理由もなく人を殺したりしない。

ある日、ホステイモがいつもと違う物を持って帰ってきた。

ラーダやロザリンが欲しがつていた料理の本や音楽雑誌。私が自己紹介で言つた本が好きなことを覚えていてくれたらしく、推理小説を拾つてくれた。

ラーダなんかは大喜びで、感極まつたのかホステイモに抱きついてロザリンに引き剥がされていた。こんな時ばかりはラーダの天真爛漫な振る舞いが羨ましかつた。私も勢いに任せて抱きつけばよかつたのに。

ホステイモはまだ何かを麻袋に隠していたけど、ソニアには何も渡さなかつた。

私はその夜、ソニアを励ますつもりで話をした。そんなつもりはなかつたのだけれど、氣づけば溜め込んでいた胸の内を話して私が励まされてしまつた。ソニアは優しい。

まだ、ホステイモも起きていたみたいで私達の密会に混ざつてきた。どうせだからと私はグループを作ろうということ、その名前を今此処で決めようと話した。

決まつた名前は【ウルサス学生自治団】。ソニアは地味な名前だと文句をついていたけど、私にはわかる。こういう時のソニアは本当は気に入つている時の反応だ。

その後、リーダーにはホステイモを名指しした。ソニアも頷いた。こんな時でも無意識に重荷を人へ背負わせようとする私は最低なのだろう。だけど、ホステイモは力強く頷いて言つた。

——誓おう。この僕の保護下にある間は、仲間を傷つけない限り天災からだらうと守ると。

夜だというのに、彼の姿は私には眩しかつた。こんな暗闇の世界で

どうしてそんなに強くいられるのか、私には眩しすぎる。

話も終わつて私も眠りにつこうと横になつた。そして見た。

ホステイモが麻袋からクマのぬいぐるみをソニアへあげるのを。

それをほんのりと赤くなつた顔で受け取るソニアを。

私はズキリと痛む胸を隠して目を閉じた。

part. 6

貴族グループと食糧庫

サバイバル学園生活も大詰めなRTA、はーじまーるよー。

前回はウルサス学生自治団結成の場面まで行きましたね。これでやつとペテルハイム高校でのシナリオもあと少しという感じになりました。このままなら良いタイムが出そうなので、もう一踏ん張り頑張りましょう！

このシナリオの学園パートが終わる前にやるべき事は大きく分けて、もう残り2つしかありません。

一つはコードネーム、ロサこと【ナターリア・アンドレーエヴィナ・ロストワ】のウルサス学生自治団への加入。もう一つは脱出前のレユニオンへの接触です。

後者についてはとある目的があつて、それを行うことが本チャートで一番重要な要素といつても過言ではないので必ず忘れないようにしましょう。

前者についてはシナリオ進めていけば、プレイヤーキャラが干渉しなくともズイマーが勝手に助けて、自然とウルサス学生自治団に入るのを流しながらOKです。それでは早速始めていきたいと思います。

それにしても今回の走りでは何故かズイマーちゃんが助けた生徒を空き教室へ連れてこないんですね。いつもならアホみたいに連れてきて、（食糧の備蓄が）冷えるか？ ってなるんですけど不思議ですねー。

一応困っている弱者がいると、その場では助けてはいるみたいですがね。流石、弱者の守り神ですね、こんな時でも優しさを忘れない、勲章なのですよーこれは。

えつ、私ですか？ 発見したら助けないとSAN値が下がるので基本モくんが見つけないように動いてますよ。探そうと思えばいくらでもいますけど、どれだけ助けても焼け石に水ですからね、じやけん放つておいて食糧集めましょうね（人間のクズ、走者の鑑）

今の所、食糧の備蓄はまあまあ出来ています。地下の防空壕からちよくちよく持つて帰つている分を除いて、ホモくんしか知らないとある金庫に一箇所集中で脱出時に使えるよう纏めていますが、全員合わせて2日分はありますので上出来といったところでしょう。

ホモくんが皆で集まつて食べる夜以外の食事を虫や草で我慢している甲斐がありましたね！

さあ、我らが拠点に帰つてきました。よつす、グムちゃん。今日も元気で可愛いね！ おや？ 珍しくズイマーとリエータどちらも外出しているようです。まあ、夜になれば帰つてくるでしょう。体力温存とS A N値回復の為に瞑想でもしておきましょうか。

ぬつ、誰かが近づいてきたと思つたら、イースチナの親友（笑）のヴィカさん、ヴィカさんじやないか！

彼女はイースチナの親友でありながらモブの流用立ち絵しか用意してもらえたかった悲しい存在で、専用立ち絵を貰えなかつた恨みからウルサス学生自治団を搔き乱す困つたちやんです（捏造）

まあ、半分冗談ですが、彼女が厄介である事は変わりません。本来ならズイマーが助けて連れてきた大量の生徒1人1人に近づいて、貴族グループへ加入できれば生き残れるだのなんだのと吹き込んで、ウルサス学生自治団の中で内部分裂を起こそーとします。

イースチナが説得しても聞く耳を持たないどころか、イースチナにズイマーを説得するよう強要してズイマー達が曇る要因を作るクソみたいな存在です。

どうやらホモくんがウルサス学生自治団のリーダーになつた事で、煮え切らない態度のイースチナから此方に標的を変えたようですね。長々と猫撫で声で話していますが要約すると、

「お前も貴族グループへ行かないか？」

「（こ）のままで皆）死ぬ…！ 死んでしまうぞホステイモ！ 貴族グループへ行け!! 貵族グループへ行くといえ!!」

ということです。

当然断りますが、この女、何処、そのブラツク上司に無理難題を言われる鬼のようにしつこく勧誘してきます。このビチグソ”ウルサス

スラング”を

対処するのは簡単です。ズイマーカリエータのオラオラ系をぶつけてやりましょう。それだけで黙ります。

まあ、こいつの厄介なところはその苦手な存在がいない時を狙つて動きだす陰湿さにあるのですけども。

今からズイマー達2人が帰つてくるまでヴィカのセールストークを聞き流すのは簡単ですけれど、ホモくんの瞑想の邪魔なのでもう黙らせてしまいましょうか。えーと、剣は何処だつたかなー？

「何でよ！ 貴方だつて彼等と同じ貴族なんだから同じグループへ入つた方が良いじゃない!?」

——パンツ。何かを叩く音が空き教室に響いた。どうやら、ヴィカの頬をイースチナが叩いたようだ。

「彼を！ ホステイモをあいつらと一緒にしないでください！」

「ファツ!? イースチナがヴィカに怒つてる!?

なんか怒る要素ありましたかね、今のイベント？（純真）一応リーダーであるホステイモへの侮辱として怒つた感じなのかな。あー、ヴィカが走つて空き教室を出てきましたね。

うーん、イースチナが面と向かつてヴィカに怒つている姿を初めて見ました。彼女はイースチナを見捨てて殺すことにとっても大きな罪悪感を抱くくらいにはヴィカと仲が良かつた筈なのですが、どうしたんでしょう。

それからヴィカは帰つてきませんでした。どうせ腹が減つたら戻つてくると思います。

だからホモくんは落ち込んでいるイースチナを慰めてあげましょうね♪。ああ♪！ 好感度の上がる音♪！ 傷心中の女子高生に近づいて慰めるフリで距離を詰める人間のクズ、ギャルゲー主人公の鑑ムーブは楽しいなあ！

次の日、外でエプロンが欲しいと言つていたグムちゃんの為に辺りを散策していたところ、ヴィカを発見しました。誰かと一緒にいます。

気づかれないように近づくと、第四高校の貴族グループが付けてい

る紋章が見えました。どうやら、媚び売りの最中のようです。まあ、ヴィカが貴族グループへ入ろうが入らなかろうが害はないと思うので放つておきまーーー。

ーーーヴィカが笑顔でウルサス学生自治団の情報を貴族グループへと渡していた。いつ頃が人が少ないか、誰を狙つた方がいいか、どれだけ物資があるかなどを話しているようだ。

……。人間の屑がこの野郎：二度とこの世界に居られないようにしてやる。大丈夫つすよ（心は）バツチエ冷えますよ。どう料理してやりましょうかね、こいつ。イースチナにこのことがバレるとS A N 値がヤバいことになりそうなのでホモくん1人で何とかしよう。

取り敢えず、奴らをヴィカごと返り討ちにしてやります。えつ、「峰打ち」スキルですか？　勿論、使いませんけど、何か問題ありますかね？

それじゃあ、襲撃の時間まで加速します！

おうおう、沢山連れて来やがりました。ひい、ふう、みい…。ほう、30人ほどいますね。

ちょっと、まつ、多スギイ！　ちょっと待つて、私そんな恨み買いうなことした覚えないんですけど。來たとしても多くて10人くらいだと思つてたのに、ええ？

ーーー集団の戦闘にいる男、見覚えがある。この前、平民から食糧を奪おうとしていた貴族だ。

「貴様はこの私、パーヴエル・ニコラエヴィチに恥をかかせた薄汚い貴族崩れではないか！　邪魔だそこを退け！　私達は今から貴族による貴族のための崇高な使命を果たさなければいけないので！」

ーーーそれは出来ない。理由は隣の女に聞くといい。

あつ、クマのぬいぐるみの貴族だ！　また君か壊れるなあ

ウルサス貴族は敵とした場合、全員がアーツユニット所持の良い装備を持つてるので、正直そちらのレユニオン兵士より厄介です。何でこいつら大人しくレユニオンに監禁されているんですかね、馬鹿な

のかな？

「あの男がウルサス学生自治団のリーダーです！あれを殺せば後は冬将軍と夏将軍しか敵はいません！さつさと殺してください！」

——もう誰にも傷つけさせたりしない。僕は僕の誓いの為にお前達を殺す。

貴族達が各自の武器を抜きましたね。よし、じゃあブチ込んでやるぜ。

——【ホモくん奮闘中】【ホモくん奮闘中】【ホモくん奮闘中】
「ひ、ひい！たすけて！私を殺したら、アンナが黙つてないわよ!?
嫌だ、死にたくない！」

——貴様を生かしておいたら、また同じことをするかも知れない。恨め。僕もじきに地獄そこへ行くだろう。

——最後の1人を斬り捨てる。僕は肩で息をしながら上を見た。空は暗い。

ふう、終わりました完全勝利です。無駄な抵抗しやがつてよ。全員殺したのでS A N 値が大きく下がるかと思いましたが予想していたよりは少ないです。ガバで先に3人も殺しておいたのが影響しています。急がばガバれとはこの事ですね！

戦いを終えたら、すっかり夜になりました。早いところ死体を埋めて戻りたいですけど、数が多いな。誰だよこんなにやつたやつ。

——火の粉と共に爆炎が空に舞い上がる。どうやら、第二食糧庫の方からのようだ。悲鳴が聞こえる。

あつ、ズイマーチやんやりましたね、これ。第四高校の占拠しているつて、なんかこれじやあホモくんが貴族グループ潰したみたいになりました食糧庫が燃えています。グループの残っていた貴族も今頃逃げ出しているでしよう。

1日の中に貴族グループの人間が大勢斬り殺されて、食糧庫が燃えりそうで草が生えますね。

それでは、今回の動画はここまでにしたいと思います。お疲れ様でしたー。



貴族として。

私、【ナターリア・アンドレーエヴィナ・ロストワ】は誇りある上級貴族、ロストワ伯爵家を継ぐ者として恥ずかしくないよう努めようとした。

ただでさえ仲が悪く協調性のない貴族階級の生徒がユニオン達にやつて一か所に集められた。

そのせいで早くも衝突が発生したけれど、私が貴族の矜持と非常事態での結束を説いてこれを制して、グループのリーダーとして貴族達を統率することに成功したわ。

最終的に私をリーダーとしたグループは30人を超える大所帯となつて、ペテルハイム高校のトップに君臨した。我ながら、よく頑張つた方だと思った。

だけど、それは良いことだけではなかつたの。

貴族は利己的よ。

彼ら貴族は、私を含めて常に自分は上の立場にいる人間だと思つてゐる。貴族とは、常に優雅で高潔で尊重されるべき身分。それはレユニオン達に監禁されていたとしても変わらないと。

だから彼らの内の1人が、「貴族にあるべきメンツを保つために平民に貢献してもらう」——平民生徒からの略奪を提案してきたのは予測されて然るべきものだつたわ。恐らく、あの時私が断つても散つて行つた他の小さな貴族グループ達が同じことをやつたでしよう。

私は、これ以上貴族グループの分裂を避けたかった。

だから、それを認め、私はあろうことが食糧強奪計画の作戦を立案・指導までしたわ。

私の仲間達が笑顔で平民から奪つた物を、手柄でも見せつけるかのようを持つてくる。それを間違つていると知りながらも私は笑顔で褒め称えた。

怖かつたのよ。

彼らの行いを叱咤して、もし矛先が私に向けば、何も出来ずに殺さ

れてしまうから。

だから私は私を騙し続ける。

山積みになつた物資に喜びを感じた時も、悲惨な叫び声や泣き声に耳を塞いだ時も、人から奪う生活に慣れていく自分を自覚した時も、私は自身を悪くはない、仕方がなかつたと慰めた。

そして私が私を騙すたび、脳裏にある男の子が浮かび上がる。

それは私がレュニオン達にペテルヘイム高校は連れてこられた日に、たつた1人でレュニオン達に立ち向かつた。愚かしく、そして、私が望んでいた、こうありたいと願つていた、誇り高き貴族の姿だ。

彼はレュニオン達を己が磨き上げた力によつて打倒した。後からやつてきた【パトリオット】という大男。彼が倒されるまでにレュニオン達はその数十倍は倒されていた。

彼はレユニオン達に勝てはしなかつた。けれど、あの場の誰よりも【貴族の義務】ノブレス・オブリージュを果たそうとしていた。平民から食糧を奪つて生き永らえようとした私達とは真逆だ。

彼はレユニオン達に連れて行かれた後、何があつたのかわからぬけれど学園に戻つてきた。そして今は、冬将軍が集めた仲間達と一緒にいるらしい。そんな事を仲間達が話しているのを聞いた。

私は彼が生きていると知つた時、思つた。何で生きていたのかと。彼さえいなければ、私は私を騙し続けていられるのに。私は優雅で高潔で、現実を知らない貴族のままでいられるのにと。

だから、パーヴエル達がウルサス学生自治団から食糧を奪いに行くと言つた時、私は彼らを止めなかつた。いえ、もしかしたら私にはもう彼らを止める力などなかつたのかもしれない。

いつまで経つても救助は来ない。私達は国に見捨てられたのだと、私が既に薄々勘付いていた。もはやこの場所に貴族も平民もありはしないのだと。

私達が占拠していた食糧庫が燃える。

貴族に恨みのある誰かが火を放つたのだろう。

私の目の前で火の粉が舞う。私は悲鳴を上げて逃げ出した。
怖い、怖い、怖い。

私は死にたくなかつた。だつて私はまだ何もやれてはいない。何にもなれてなどいないのでから。

ああ。でもあの熱い火を見て少しだけ思つてしまつた。

——もしも死ぬのなら、彼のような貴族に殺されたいと。

I-Fルート？ロドス・イン・ホステイモ？

地獄のような場所から平和な世界へと帰つてきてから、既に数週間がたつた。僕、ホステイモ・ムーライは今、【ロドス・アイランド】という製薬会社にいる。

チエルノボーグ事変。

ウルサス帝国の大都市であるチエルノボーグ市で突如として起つた【レュニオン・ムーブメント】という感染者武装集団によるテロと天災の襲来によつて、チエルノボーグ市に住む僕を含む全ての人間は地獄を見た。

今でもその時のことは夢に見る。

だけど、僕は何とか、通つていたペテルヘイム高校から脱出して、ウルサス学生自治団の皆とロドスに救助されるまでの間、生き残ることができた。僕は助かつたんだ。だから、いい加減前に向かなければと思う。

「ティモくーん！ 朝だよ一起きてー！」

ラーダ。今はグムというコードネームを名乗つている僕らウルサス学生自治団のムードメーカーが起こしにやつてきた。

早く外に出ないと笑顔で僕の部屋に乗り込んでくるのが容易く想像できる。僕は足早に着替えを済ませて部屋を出た。

「おはよう、ティモ君！ 今日もいい朝だね」

「グムは朝から元気だな。大変だろうし、毎日起こしに来なくともいいんだよ？」

「ううん、全然大変じやないよ、グムはこの時間が好きだから。それとも迷惑だつた…？」

グムがうるうると瞳に涙を浮かべる。困つている僕の後ろから声と共に衝撃が襲つてきた。

「おいおい、ウチの可愛い仲間を泣かせたのはどいつだ？」

「これはいけませんね。ふむ、ホステイモには罰としてグムを食堂までエスコートしてもらいましょう」

振り返るとそこにはロザリンとアンナがいた。今はリエータとイースチナ、そう名乗っていたはずだ。どうやら、僕はリエータに後ろから尻を蹴られたらしい。僕はまいつたように両手を上げた。

「わかつたよ。グム、僕と一緒に食堂へ行つてくれるかい？」

「！ うん！ イースチナお姉ちゃんとリエータお姉ちゃんもおはよう！ 皆で一緒に食堂へいこうね」

グムの差し出した右手を掴んで一緒に歩く。隣で見てくるイースチナとリエータが揶揄うように笑いかけてくるが無視して僕は歩いた。

食堂へ着くと既にロドスのオペレーターの皆が食事をしていた。

僕が辺りを見渡すと、グムが「あつ」と食堂の端を指差した。僕もそつちの方へ目を向けると、笑顔でこちらへ手を振るロサとむすつと座っているズイマーがいた。

僕達がそちらへ歩いていくと、ロサが僕達の分の椅子を引いてくれた。相変わらず、気配りが凄まじい。僕は空いているズイマーの隣に座った。

「たくつ、何でアタシが朝早くから場所取りなんてしないといけねえんだ」

「あら、でも久しぶりに任務がなくてゆつくり6人一緒に食べられるからと提案したのは貴方ではなくつて？」

「ちよつ、それは黙つとけよナターリア！？」

「あはは、ズイマーが赤くなつてるぜ」

「本当だー！ズイマーお姉ちゃんまつかあ～！」

「ふふふ、ごめんなさいちよつとイジワルだつたかしら？」

「皆、他のオペレーターの方々もいらつしやるのだから少し静かに食べましょう」

ズイマーが悪態をついて、ロサがそれを揶揄つて、それに便乗するリエータ、それらを見て笑うグムに騒がしさから皆を注意するイースチナ。

そんな光景を見て、僕は自然と笑みをこぼした。

「あつ、何笑つてやがんだホステイモ！」

怒ったズイマーを尻目に僕は朝食をいただく。ああ、なんて美味しいご飯なんだろう。

皆との食事が終わって、久しぶりの全員がいる休日ということでお僕達はロドス内を歩き回る事にした。

僕達の暮らす新しい居場所、ロドスは【ロドス・アイランド号】という移動型の大型基地を本拠点としている組織だ。

最初はただの製薬会社が持つ拠点ではないだろうと、その怪しさに警戒もしたが、ロドスにいるオペレーターの皆はとても良い人ばかりだし、僕達オペレーターを指揮するドクターは見た目が怪しさの塊だけれど、下手にあの時の事を詮索もしてこない。作戦の指揮も抜群、何かと頼りになる人だ。

ロドスは【鉱石病】の治療を目的として研究を続けている組織で、このロドス本艦内では、感染者や非感染者なんかは関係なく、様々な人種がその目的のために集まっている。恐らく、感染者にとつてここ以上の場所は存在しないだろう。そう思うほどにロドス内は感染者に對して優しい。

僕達がチエルノボーグ事変で救助されてからは、ロドス内で戦闘作戦に参加するオペレーターとして僕やズイマー、リエータが働いている。グムは主に食堂の料理補助として、ロサやイースチナは難民に対する事務作業なんかをして、それぞれロドスに貢献している。

働く理由としては、ロドスは基本的に働く者食うべからずといつた感じで、難民はある程度たつて回復が見込めたら各々が希望する地域へと送られるからだ。ロドス本艦に留まるためにはある程度働く必要があつた。だから僕達は僕達にできることにしている。

「あつ、ホステイモさん。それにズイマーさん達も。ウルサス学生自治団の方々が皆さん一緒にどうされたのですか？」

僕達の歩く通路の向こう側から來たアーミヤさんがにこやかに近づいてきた。

ロドス内でも重度の鉱石病患者であり、14歳ほどの若さでロドスのCEO、つまりはロドスの最高責任者を務める少女。彼女には、あ

のケルシー先生やドクターさえも敵わないらしい。この場所で一番怒らせてはいけない存在だ。

「アーミヤさん。いや、休日が全員同じだったので、せつかくだからロドス本艦の中でもゆっくり見て回ろうと思いまして」

「そうだったんですね。それでは邪魔になるといけないので私は去りますが、どうか楽しい休日を過ごしてください」

「はい、ありがとうございます」

アーミヤさんは最高責任者でありながら、時に自身も術師オペレーターとして戦場に出る。

このような小さい子を戦わせるロドスの現状に思わないところがないとはいえない。だけど、それは全てレユニオン・ムーブメント。あの組織が大々的にロドスへ敵対して、襲いかかってくるからだ。

彼らは自身達が世界で一番不幸であると謳い、世界が悪いと善良な人達にさえ牙を向く。

だからこそ、僕はレユニオンの感染者達が嫌いだ。もつとも、チエルノボーグでの出来事を体験した者の中でレユニオン達を許せる者は1人としていないだろう。

「何暗い顔してんだよ。せっかくの休日なんだ、楽しもうぜ。グム、行きたいところないか？」

「えつ!? う、うーん、ならグム娯楽室行つてみたま。食堂に来る子達が楽しそうに話してるの聞いたんだ！」

「あら、いいんじゃない」

「ふむ、なら、そこへ行きましょうか。ズイマーも文句はないでしょ？」

「別にアタシはどこでも良い」

心配させたのだろうか。僕は皆に身体を引っ張られていく。

昔とはまるで逆だ。

そうか。もう僕が引っ張り上げなくても彼女達は前に進めるんだ。そう思うと僕の心は少しだけ軽くなつた気がした。

娯楽室には色々な物があった。テレビゲームやトランプみたい

な物もあれば、身体を動かすサッカーボールなんかのスポーツ道具もある。ズイマーとリエータは我先にとラケットとテニスボールを手に取ると、部屋の横にある運動場に行つて試合を始めた。ロサはそれを見て、やれやれと言いながら審判役としてついていく。

僕はグムとイースチナと一緒にトランプで遊んだ。因みに結果は全敗だ。どうやら僕は表情が人より顔に出やすいらしくて、こういう遊びは苦手だった。

そのあとは皆でテレビゲームをした。イースチナとロサが強くて、僕とズイマーは熾烈な最下位争いをした。負けたら罰ゲームがあるらしい。リエータが言い出した。だから僕は負けるわけには行かなかつた。

「おー、いい気分だぜ。元貴族様を枕にするのはよー」

……僕はため息をついた。その姿を楽しそうに僕の右足を枕にするリエータが笑う。

ズイマーとの勝負に負けて最下位になつた僕は、今皆の枕になつていた。寝転んだ僕の両手両足、そしてお腹は彼女達に占拠される。どうしてこうなつた。

「……う正在りとあの時のことを思い出すね。寒くてグム達で固まつて、よく一緒に寝てたよね？」

僕のお腹の上で抱きつきながら寝ているグムが懐かしむように呴く。

そうだ、ペテルヘイム高校から脱出した僕達は満足に暖も取れなかつた時、いつもこうして皆で温めあつていた。

「そういうえば、前の事で思い出したのだけれど、グムの金庫の盾つて何処から拾つてきたの？」

左腕を枕にしているロサが聞いてくる。

「あれは確かホステイモが拾つてきたんだ。グムにこれを盾に使えとか言つて渡してな」

右腕を枕にしているズイマーが言う。

懐かしい話だ。あの時は、身を守るすべを持つていなかつたグムを安心させるために何かないかと色々探していた。

「ふむ、それにしてはあの金庫の扉、やけに持ちやすい大きさへと壊れていたのですが、あんな代物がそんな都合よく落ちてる物なんですかね」

左足を枕にしているイースチナが疑問を漏らす。

「アレなら僕が丁度よく剣で切り取つて持つてきたんだ」

僕は当時を懐かしみながら答えた。途端、腕や足から重みが消えた。

「えっ、アレってお前が作ったのか!?」

「切り取るつて、剣で!?」

「ふむ、ヤバいですね」

「貴方、どんな剣の修行をしてきたのよ?」

「え〜! あの盾つてティモ君のオーダーメイドだつたんだ〜、グム知らなかつたよ〜。でもティモ君がグムのために作つてくれてたなんて嬉しいなあ」

何故かグム以外の全員が驚いた顔で僕を見る。一体どうしたのだろうか。

「あの程度の金属の扉を剣で加工するなんて、ウルサス貴族なら誰でも出来るよ」

「「……」」

ズイマー、イースチナ、リエータが振り返つて口サを見る。それに対して、口サは首が取れるかというほど頭を横に振つて叫んだ。

「ウルサス貴族を何だと思っているの!? む、無理無理無理、無理に決まつてるでしょーーー!」

珍しく狼狽える口サをズイマー達が揶揄う。

ロドスは今日も平和だ。だからどうか、この平穏がいつまでも続きますように。僕は天に祈つてそのまま心地よく眠りについた。

part. 7 白い悪魔

さつきまで命だつたものが辺り一面に広がるRTA、はーじまーるよー。

前回は血祭りと火祭りが同時に起こつた辺りで終わりましたね。まあ、血祭りの方は私がやつたんですけども（笑）

いやー、ズイマーちゃんが第四高校の貴族達の占拠する食糧庫を燃やしてしまいました。こんな事になるなんて、一体どうしてなんだ。逃げ惑う貴族達もそんな風に思つていることでしょう。

これも平民から食糧を奪い、自分達だけで利益を独占しようとした報いなのです。悪の貴族達に虐げられた平民達の為に、夜中に侵入して、放火までするなんて流石、【弱者の守り神】ですね！

ペテルハイム高校に残る最後の食糧庫が燃えた次の日から、生徒達の暴走は最高潮に達します。

ズイマーちゃんの起こした火事によつて、ついでとばかりに学生間の無差別の略奪や争いにおける、全ての障害も焼き払われてしましました。

「第四高校の貴族達は全員消えた！ 今がチャンスだ、食糧を奪え！」
「あつちに貴族のやつらがいたわ！ 今のうちに全員殺しておきましょう！」

右を向けば、今までの恨みを晴らすかのように火事で散り散りになつた貴族達を平民達が棒やスコップで殴り倒していますね。

「どきなさい！ どかないならアンタから殺すわよ!?」
「ンだとゴラアア？！」

「邪魔よ、死ねええええ！！」

左を向けば、焼け落ちた食糧庫跡地で奇跡的に残つていた物資を巡つて学生が刃物を振りかざして殺し合いをしています。こんな光景はグムちゃん達には見せたくありませんね。いやー乱世乱世でござる。

ご覽の描写のようにズイマーちゃん放火イベントが起こると、学園

サバイバルパートも大詰めといった感じで生徒達の凶暴性が大幅に上がります。

具体的にいうと、今までの拠点襲撃率が約3倍に跳ね上がります。（他に比べれば）潤沢な物資を持つていてるグループが、もうウチしかないから、しようがないね。

ということで、この時期になると私のホモくんは拠点を守る戦力として大忙しになります。

放火があつてから日を追うごとに学校内にいるのが大変になつていくので、今のうちに口サの確保とレユニオンを退かせるためにメフィストのクソガキに接触しに行きたいところなのですが、朝も昼も夜もオリジムシのようにワラワラと湧いてきては襲つてくる生徒達を相手しないといけないのでまだ動けません。

一応、救済処置として3日以上連続しての襲撃は発生しないようになつてているのでその時を狙つて動きたいと思つています。

なので、口サが救出イベントを起こすまで死なない仕様を利用して、3日ウルサス学生自治団の皆を助けながら、意氣消沈のズイマーを慰めていきたいと思います。ついでに、さり気なくヴィカが死んだことを伝えましょう。

この時に包み隠さずどういう理由で殺したかを伝えましょ。嘘をつくと後でバレると最悪、後ろからナイフで刺されて殺されます。Nice boatされます。

こういう小さなケアの積み重ねが好感度とS A N値の確保に繋がるので、しつかり忘れないようにしましょ。

——【ホモくん奮闘中】【ホモくん奮闘中】【ホモくん奮闘中】

よつしや、モヒカン生徒共の休憩日に入つたので、ズイマーと一緒にスチナの2人と一緒に外へ出て探索したいと思います。口サちゃん、今行くよー。

おつ、いたいた。出待ちのことく口サとその仲間達が生徒達に囮まれていますね。

高貴な女の子が下賤な平民達に嬲られるゲヘヘイベントなのでそのまま眺めてR 18シーンを視聴者の方々にも見せてあげたいので

すが、残念ながら、これRTAなのよね…。

なのでナターリア様のあんなシーンやこんなシーンが見たい変態紳士の方々は本作を買ってプレイしましょうね~。

気づいた生徒達がこつちにもやつてきました。ああ、ホモくんとズイマーとイースチナが囮まれてしまいました。

どうしよう、こまつたなー、これじやあたたかうしかないよねー（棒読み）

おらつ、命以外全部置いていきやがれ！

ーーーあの銀髪の人。私のところにいた生徒会長です。私達が生き残るために必要な人材なので助けましょう。

イースチナが全員殺す気だつたズイマーを説得してくれました。ズイマーと2人きりでこのイベントを発生させると、今の自暴自棄に近い精神状態のズイマーを止められる人物がないと口サが殺されてしまいます。なので、イースチナを連れてくる必要があつたんですね（3敗）

それでは仲間達を全員殺されてしまつた哀れな生徒会長を私達のウルサス学生自治団にご招待しましよう。美味しい虫のおやつはいかがかな？ いらないの？ ……そう。

拠点の空き教室に帰つてきたので、皆に口サちゃんの自己紹介をしましよう。なんだかんだで統率力とコミュ力は天下一品なのですぐに馴染んでくれます。

口サはちよくちよく様子を見るくらいで手間がかからないRTA、通常プレイを問わず使い勝手のいい子なのでたくさん愛でてあげましょう。

因みに、自身がリーダーの時に好感度が低い状態を維持したまま過ごすと、いつの間にかクーデターされて殺される事もあるので注意しましよう（15敗）この恩知らずがよ…！

しかしこれでウルサス学生自治団がフルメンバー揃いました。

もう仲間を集める必要はないので、後は脱出後に楽が出来るように備蓄を増やしていきます。といつてももうあまり時間は残されていないので

、やれても少しでしようが頑張りましょう。

——加速中

はい、口サを助けてから更に3日が経ちました。襲撃、襲撃＆襲撃でホモくんの疲労度もMAXです。グムちゃんが応急処置してくれていますが、ホモくんも率先して戦いに出るので傷だらけです。皆のSAN値を減らさないよう出来るだけ1人で戦つてますから、しょうがないね。

——このままではまずい。もし結託した生徒達が大勢で来たら、もう守り切れないかもしね。どうすれば。

↓ レュニオンのところへ交渉に向かう

危険だ。まだ耐えるはずだ。別の方法を考えよう。

メフィストのクソガキの所に行けるイベントが発生したので、上の選択肢を選びましょう。下を選んでも、この選択肢が出た時点で次の日にはレュニオン達は撤退します。ですが、上を選ばないとメフィストに会えないので今回は上の選択肢を取りました。

「——は通せない。元の場所へ戻るんだな」

深夜になつて皆が寝静まるのを待つて、レュニオン達がいる寮舎へやつてきました。当然といえば当然ですが、門番の兵士に止められましたね。

——貴様達のボスにどうしても会いたい。そこを退け。

「……死にたいようだな」

——レュニオンの兵士が武器を取り出す。僕も剣に手を伸ばしました。

「構わない。入れろ」

——何処からともなく現れた黒いフードの少年がレュニオンの兵士を止めた。

「ついてこい」

——またあの化け物と戦いになるかもしね。でもやるしかないんだ。覚悟を決めて、寮舎の中へと入る。

ファウスト君が案内しにやつて来てくれました。この子、本当にいい子ですよねー。まあ、戦闘スタイルは光学迷彩のアーツによる芋ス

ナとかいう外道戦法使つてきますけどね。

ファウスト君を殺したいならメフェイストを人質に取るか、感知系のアーツを使えるキャラを用意しましょう。えつ、人質は卑怯じやないのかつて？ 勝てばいいんだよ、勝てば。

——案内された部屋へ入る。先程の少年と同じくらいの歳の白髪の少年が兵士を従えて座っている。まさか、あれがレユニオンのボスなのか？

チイース、クソガキ、遊びに来たぜ。というわけでレユニオンの悪意担当こと【メフェイスト】くんでーす。

本名はイーノ。実はウルサス出身です。ホモくんと一緒にだね！

まだこんな性格になる前は大人しい子だつたのですが、親からの虐待や意図的に源石と接触させられるという仕打ちで感染者になりました。

その後はタルラに保護されて、仲の良い友達も出来たのですが、その後も非感染者に殺されてしまい今の性格になつたそうです。因みにファウストくんとは唯一無二の親友だよ。

同情できる部分もあるけど、だからって一つの高校に色んな所から生徒達を集めて地獄を作つた張本人なので、ズイマーちゃん達にはコイツを殴る権利があると思いますねえ。

「やあやあ、僕はレユニオン幹部のメフェイストだよ、宜しくねヒーローくん。それにもしても、たつた1人でこんな所へ来るなんて度胸があるねキミ。話があるみたいだけど、一体僕に何の用なんだい？」

——僕達を解放してほしい。もし無事に解放してくれるなら、僕が何でもしてみせる。

「ふうん？ いいよ、わかつた、解放しよう」

——…………本当か？

「うん。でもお願ひが一つあるんだ。それさえキミが叶えてくれるなら、僕達は直ぐにでもここを去るよ」

よしよし、目的の物が手に入りそうです。ここは迷わず了承しましょう。

——わかつた。何をすれば良い？

「キミにはこれを食べてほしい」

——メフィストの手には、脈をうつ赤黒い塊が蠢いていた。

わからない人もいると思いますので説明しますと、今メフィストが差し出しているこれは、メフィストのアーツで作り出した【源石寄生体】です。これを受け入れると、何と確定で感染者になります！「それは僕のアーツで生み出した源石寄生体。それを取り込めば、キミも僕達と同じ感染者になるん——」

——ホステイモは一切の迷いなくメフィストの差し出す物を飲み干した。

「・素晴らしい。良いよ、キミ。それが何か分かつてなお、迷いなく飲み干せる人は初めて見たよ。約束だし、直ぐにでも僕達はいなくなるよ」

このメフィストのイベントの良いところは、本来源石がある場所で行動することで確率で変化する感染者に確定でなれることです。それも普通の感染者になつた際のアーツ強化倍率のおよそ2～3倍。これだけでこのイベントを起こす利点がわかると思います。

「もう直ぐキミは気絶するだろうからこれだけは言つておくね」

——意識が朦朧としてきた。メフィストが泣き笑つているように見えた。

「苦しみは始まつたばかりだ、人生を楽しめ。それじゃあね、僕達の新たなお仲間さん」

——次の日、僕の目が覚めるとレユニオン達は全員いなくなつていた。

それじゃあ、無事ホモくんを感染者に出来たので、今回の動画はこら辺で終わりたいと思います。お疲れ様でしたー。

核みたいな隕石が降つてくる地獄みたいなRTA、はーじまーるよー。

前回はレユニオン幹部メフィストの手によつて、ホモくんが改造人間（感染者）にされたあたりで終わりましたね。

おのれメフィストめ！ 感染者絶許のウルサス帝国の貴族を感染者にしてしまふとは、なんて酷い奴なんだ！ まあ、RTA的にはどうでも良いことなので、気にせず進めますが。

ということで、ホモくんの献身でレユニオンがいなくなつたので、起きて速攻で隠していた食糧を持つて皆と外に出ましょう。

「なによ…あれ…」

——空が黒い。チエルノボーグ市全体に、まるで僕達へ罪を問うかのように破壊が降り注いでいた。

はい、天災がやつてきました。

これで学校を脱出できるようになるので、混乱している皆を引っ張つて外に出ましょう。

もう学校にいても何の意味もありません。せいぜい、発狂していく生徒達の殺し合いが見れるくらいです。

これからは当初の予定通り、最短ルートでレユニオンや暴徒共を蹴散らしてロドスの救助隊に近づきます。この時のために鍛えたホモくんの鋼の肉体を使いまくりましょう。

現在の全食糧は、ホモくんのへそくりである保存食を合わせても全員分にすると4日弱、一食換算だと25食分ありますが、どんなに頑張つても最短ルートで10日はかかります。

あつ、おいでい（江戸っ子）それじゃあ食糧足りないじやん！ と視聴者のホモ達は焦つてていると思いますが、そこは心配ご無用です。私に秘策があります。

このシナリオ、基本的に私のような走者が使うRTA用の効率的なルートを通らない限り、一ヶ月くらい天災の降るチエルノボーグ市を

彷徨わなくちやいけないので、どう頑張つても食糧が見つからない場合は救済処置として存在する人肉チャレンジを行う必要があります。

ただ、この人肉チャレンジ。感染者の死体を食べて感染者になつたり、そもそもチャレンジする段階でS A N 値がごつそり持つていかれたりします。うわあ：何だこのマイナスイベント、たまげたなあ。

つまり、私のトロフィー取得条件のようなS A N 値確保が重要なR T Aだと、この方法は取れません。

ならどうするか。

基本的にこのシナリオのキャラは食事を3日取らないと死亡、2日取らないと1日行動不能、1日ご飯を取らないとペナルティで戦闘参加が出来なくなります。

ですので、食糧が足らぬと徐々に戦闘ができなくなり、動けなくなり、死亡するという道を辿るわけです。

ですが、逆に考えれば1日だけならば食事をしなくても戦闘不参加ペナルティだけで済みます。

なので、ホモくん以外の全員で考えれば10日を5人で25食分なので、1日ご飯抜きを日に挟んでいけば最短ルートなら間に合うのです！

えつ、最短ルートは戦闘多めで戦えないキャラが多くて大丈夫なのか、そもそもホモくんの分が入つてないじやんアゼルバイジヤンですって？

ふふふ、そこは大丈夫です。何のために序盤ステ上げを頑張つたと思つて いるんですか？ そう、全てはこの時のため。ワンオペで戦闘全てをホモくんに任せたためなんですね！

ホモくんの食事についても既に解決策はあります！

ホモくんをわざわざメフィスト謹製の源石寄生体による感染者にしたのは、この終盤を生き残る為なんです。

というのも、このシナリオ【アーツユニット】を拾わないと感染者以外アーツを使う手段がありません。

だからといつてアーツユニットがそこら辺に落ちているのかといふとそうでもなくて、だいたい探索で3%ほどで見つかります。

まあ、探索 자체はよく行うので試行回数が多く捨えることはまるでないのですが、そんなわけでアーツ能力を使いたいならプレイヤーキャラを感染者にするのが手取り早いです。

このシナリオでは、メフィストは会えば確定であるイベントが起るので、そこでメフィスト産感染者にしてもらうのがアーツ使用するなら一番安定します。

更にメフィスト産の感染者は特別製で、前回に言つたようにアーツ能力の出力も上がるだけではなく、寄生体くんのおかげで食事をしなくても上記のペナルティが発生しません。

代わりに【源石融合率】と【血液中源石密度】が上昇して感染が進行していくますが、ゲーム的にはステータスバフみたいなもんなので些細な問題ですね！

前に限界まで試した時はパトリオットおじさんの60%を超えられず、45%ほどで結晶化した部分から崩れていつてしましました（1敗）

その時の反省を生かして、今回はホモくんも程々に食事を取りながら戦うので安心してください。ズイマーちゃん達と違つて、感染者の人肉と虫と草になると想いますけど（ボソツ）
というわけで行くぞオラあ！

初日はガンガン進みます。終盤の天災が降り注ぐこのパートでは日にちが経つごとに出てくる敵が強くなるからですね。

強敵相手には倒すのにも時間がかかるので、初日の雑魚白仮面や浮浪者のオツサンしか湧かない内に出来るだけ進みましょう。

―――【ホモくん奮闘中】【ホモくん奮闘中】【ホモくん奮闘中】
いやー、ナタを持つたホームレスみたいなオツサンが女子高生を襲う絵面は最悪でしたね。

可哀想なグムちゃん：ひとえにてめえが弱えせいだがホモくんが底つたのでR18な展開はありませんでした。

ホモくんがナタで切られた傷を、涙を流して謝り続けながら甲斐甲斐しく治療するグムちゃんの姿は美しいですね。

計5回ほどあつた遭遇戦を終えました。順調な滑り出しで特に問題なく進めて います。このままなら普通に完走できるでしょう。

町を一つ超えたあたりで夜になりましたので、落ち着ける廃墟で食事をします。

ズイマーちゃん達には保存食を渡して、ホモくんは1人で虫と草でも食べるとします。まだ死体に手は出しません。

いくらトロフィー取得条件におけるS A N 値平均50がホモくんに関係なくも、あまり削りすぎると寄生体による暴走や学校パートで起こった行動不能状態になってしまいますからね。

ちなみに、ここでちょっとひと工夫として口サにだけ、ホモくんがここそこご飯を食べている姿を見せておきましょう。

口サだけ加入するのが遅かつた影響で好感度が他より低いと思いまして、ここら辺でホモくんが1人だけ苦労している姿を見せることで好感度を上げるためにやつてます。

全員に見せると止められたり、無理矢理まともな食事をさせられたりで計算が狂いますので、見せるのは口サだけにしておきましょう。口サだけなら、此方の意図を察して黙つてくれます。

これを毎日繰り返していくば、ロドスに回収されるあたりには目標好感度まで稼げているはずなので、夜は忘れずに口サだけに見せつけてあげましょう。

それじゃあちよつと早いですが今回の動画はここまでにしたいと思います。おそらく後2PARTほどで終わりますので楽しみにしておいてください。それじゃあ、お疲れ様でしたー。

星（源石）の降る夜を駆け抜けR T A、はーじまーるよー。

前回は学校脱出から始めての夜を過ごしたあたりで終わりましたね。ここまで来ると、このR T A動画も終わりが見えてきました。なんだかんだ、暇つぶしで始めたものがpart 9まで行くとは、このリハクの目を（ry

視聴者の方々もどうか最後までお付き合いくださると嬉しいです。それでは続きを始めていきましょう！

サバイバル2日目、まだ出てくる敵も弱いので初日と同じように強気で進んでいきます。

本来の普通プレイならこの辺りでグムの金庫盾やロサの捕鯨砲を拾つて戦力の強化を図るのですが、本チャートでは戦闘は全てホモくんにお任せ！ なので拾いに行きません。

ここで武器を探したりしていると、ロドスの救助隊へ会う最速ルートの妨げになるからです。

日中の行動はほぼ全て道を進むために使わないと、確実に2～3週間コースになつてしまふ。そうならない為に、ホモくん以外を戦力外として考えたチャートを作る必要があつたんですね。

ちなみに本筋とは関係ないんですけども、なんでチエルノボーグ市内に捕鯨砲なんか落ちてるんですかね？ あと、それを持ち上げて使えるロサちゃん、怪力すぎない？ 軽く300キロは超えていると思うんですが、それは…。

2日目の夜になりました。今日は皆、ご飯を我慢します。

ホモくんだけは虫を食べてペナルティを回避したいんですけども、それを見られるとなんかホモくんだけ隠れて食べているみたいに見えてしまします。

そこで、感染者になつたことで使えるようになつたアーツ能力【エネルギー変換】でそこいらに落ちていた電池などから電気のエネルギーを貰いましょう。

そうすると満腹ゲージが回復しペナルティを回避することが出来ます。まあ、代償としてアーツ能力をそのまま使つたので感染が進行するのですが、些細な問題なのでOKです。

別にこのアーツを使わずに虫食つても問題はないんですけど、この時の私はせっかくなら手に入れたアーツ能力を利用した方がいいと思つて使つてます。

実際、虫や草を連続して食べると幸福度下がつてSAN値も下がりやすくなるので、アーツ能力で賄えるならそうした方がいいでしょう。

——3日目、ここから敵がただの白仮面や浮浪者のオッサンから【術剣士】【拳刃兵】【伐採者】等の攻撃力の高い厄介な敵がちらほら出てくるようになります。

特に【伐採者】はHPも他のモブに比べれば高いので複数で来られるとホモくんでもキツいです。接敵時にこいつが3体以上いた場合は、ロスですが逃げましよう。

夜までに接敵したグループは【伐採者】が一体しかいなかつたので倒しています。序盤のクズ運が嘘のように順調ですね。

減ったHPはグムの治療スキルで回復してもらいます。ホモくんは戦うことしかできないからしようがないね。このシナリオ、回復役はプレイヤーキャラが担当しない限り、グムと死んだヴィカくらいしかいないのでこれからも傷つくたびにグムちゃんに治してもらいましょう。

——4日目から6日目、少し加速しています。特に苦戦もなくて、精々が戦闘中にホモくんが優先して狙われる後衛組のグムやイスチナを庇つてダメージを負うくらいです。

夜イベで、何故かロサとズイマーが喧嘩したり、グムが寝る時にホモくんから離れなくなったり、イースチナからヴィカとの思い出を話されたりしましたが、特に問題なかつたので飛ばします。

ちなみに死体を食べる件については、本来のチャートなら行つてい

たのですが、途中で【エネルギー変換】のアーツ能力を使えば感染度の進行は早くなりますが、無理して食べる必要はないとわかつてそちらの方向へシフトしています。

人肉食べるとS A N値の減りがやばいから出来ればやりたくないかつたですしね。

——7日目、ここからは更に敵に強いのが混ざってきます。出でくる確率は低いのですが、普通プレイだと日数の多さもあって割と遭遇します。

追加で出てくる敵は【ブツチャ】【サルカズ大剣士】【寄生兵】です。どれも厄介ですが、ホモくんクラスのキャラなら一体だけならタイマンでも勝てるので、ボス戦までに経験値が欲しい場合は戦つてもいいかもしません。

私はやり合う気がなかつたのですが、ロサが寄生兵のいるグループに捕まるバッジイベントが発生して仕方なく戦いました。

何とかギリギリ勝利しましたが、大きくHPが削れたのでグムちゃんの回復だけでは次の日の戦いにもたないと思つたので、ちょっとした裏技を使ってHPを満タンにしました。

えつ、どんな裏技か気になりますか？

私が使つた裏技はメフイストに寄生体感染者にされた時だけ使えるテクニックで、その名も【源石食べて元気いっぱい】です。私は源食と呼んでいます。

メフイストの寄生体くんは普段大人しいのですが、寄生している対象が死にそうになるかエネルギーが足りないと暴走しようとしてくる困ったちやんです。ですが、逆にエネルギーを沢山与えてあげると余剩分で身体の修復もしてくれる益虫もあるんですね。

そこで巨大なエネルギーの塊である【源石】をそのまま腹に入れれば、分解して吸収してくれます。

勿論、加速度的に鉱石病の進行は強まりますがシナリオ完走するまで無事ならOKで些細な問題なので無視します。

あまり多用すると最短ルート通つても途中での世行きになる

ので注意しないといけませんが、メフィストの寄生体を利用するプレイなら困った時に使えるので覚えてて損はないと思います。皆さんもぜひ使ってみてください。

あつ、このテクニックを使う際の注意点がもう一つありました。それは人の見てる前でこの方法を行わないことです。

好感度の低いキャラに見られれば、まず感染者だとバレる上に低い好感度が更に低くなります。

最悪、バケモノ扱いで敵対とかになります。ヴィカに見つかった時なんか皆にバラされて村八分みたいになつた上に全滅しました（1敗）

好感度の高いキャラに見つかった時は更に面倒で、相手側のSAN値が大幅に減つたり、治療機関へ無理矢理連れて行かれたり、監禁しようとしてきたりします。

このシナリオではないのですが、昔同じようにロドスのエリートオペレーターキャラでメフィストを使った寄生体感染者になつた事があります。

ブレイズやロスモンティスが発狂して、アーミヤが魔王化してメフィスト殺しに行つて、ケルシー先生が監禁して治療しようとしてきました。いやー、あれは楽しかったなあ。

そんなわけで7日目の夜になりましたが、ホモくんは元氣です。でもなんか、場の雰囲気が暗い、暗くない？

とりあえず、残り3日でロドスと合流できるはずなので、ここいらで全員の好感度をチェックします。

（ちゃんと目標値を超えているか）走者は不安よな。ホステイモ、動きます。

ということで、抜き打ちで皆1人1人と個別にコミュをして告白します。これはコミュ中ならいつでも出来るので、好感度チェックによく使われているコマンドですね

このコマンドを使用した際の反応で、大体の好感度の値が絞り込めます。ただ、一度使うと再使用に時間がかかるので、好感度を調べる際にはご注意を。

ちなみに、このコマンドで告白に成功しても、途中でキャンセルできます。

ですのでイベント的にはなんか告白まがいの発言を5人個別にやつてくるスケコマシみたいな感じになります。ホモくん、お前ホモじやなかつたのか…!?

ふむ、反応を見る限りどうやら全員目標値は超えているみたいですね。ホモくんが赤面して馬乗りになつたズイマーに殴られていますが、場の空気は明るくなつたからヨシ！（現場猫）

S A N 値も口サが少し危ないですが、夜のコミュを多くやればまあ何とかなるでしょう。

それでは、今日の動画はここまでにしたいと思います。あと少しでボス戦に入ると思うので楽しみにしておいてください。それじゃあ、お疲れ様でしたー。

残酷で美しい世界なRTA、はーじまーるよー。

前回はホモくんが5股しようとしてズイマーちゃんに制裁されたあたりで終わりましたね。あの感じなら、このまま走り抜けても好感度は問題ないので、SAN値にだけ気を配つて行きますよ~イクイク。

ペテルハイム高校脱出から7日目終了段階でSAN値が低くて怖いのが口サです。どうやら思つた以上にホモくんとの2人だけの秘密が心の負担になつたみたいですね。

なので8日と9日のコミュ時間を通してSAN値を回復してあげましょう

まずは8日目。

この日は敵も強いのが現れなかつたのでサクサクと倒して進みます。途中の道で昨日使つてなくなつた源石を補充したりしながら口サちゃんと構つていきます。

いつも偉いねー、皆をよく見ててくれてありがとナス！ 君になら後を任せられるよー。

こんな感じで自尊心を養つてあげましょう。

口サは元々巨大な貴族グループを纏められる程の統率力を持つ才媛なので、ヘラつてなければリーダーとしての素質はズイマーにも負けません。

仕事を多く与えても全部きつちりとこなしてくれるので、戦闘以外の雑務、その日の寝る場所やグム達の誘導、その他のメンバーのカウンセリングなんかをさせて余計なことを考えさせないようにしましょう。

流石は原作でズイマーやイースチナに口サがいないと全滅していいと言わしめるお方だ。通常プレイでも大変役に立つので、口サを入れさせたらブラック労働させましょうね~。

9日目は少しやることが多いです。口サのことは勿論ですが、私は

進み具合からして次の日にロドスの救助隊と合流できると確信したので、バス戦に備えました。

このシナリオは基本的に逃げ隠れすれば、序盤の学校で起きる襲撃イベントとロサ救出イベントくらいしか戦闘が起きません。

その代わり、ロドスの救助隊に接触する際に敵が確定でエンカウントします。

候補は色々ですが、大抵【隊長】クラスの敵が一体はいます。

これは主に、戦闘から逃げまくつてサバイバル能力にステを振った戦闘力の低いプレイヤーキャラパーティを絶望させる程度の戦力ですが、残念なことにホモくんには通用しません。

なぜなら、このバス戦のバス格である【隊長】クラスの敵は、簡単にいうとモブを少し強化した程度の強さなので、この戦闘用に作られた強強ホモくんの敵ではありません。何なら、途中で出てくる【ツーチャー】の方が厄介なまであります。

じやあ何の準備をするかというと、まあ、保険的なものです。負けることはないと思うのですが、万が一があるのがこのアーケナイト RPGなので油断せずに石橋を叩こうというわけですね。

というわけで、9日目の夜にロサではなくズイマーとコミュします。

そしてここで感染者の証たる体表に現れている源石を見せましょう。ホラ、見ろよ見ろよ。

——ズイマーが驚愕で顔を歪ませる。掴みかかってきたズイマーが何かを言おうとして顔を伏せて黙りこんだ。

ズイマーちゃんのSAN値が急降下していきますが、ここでズイマーちゃんにだけ教えたことを伝えておきます。すると、何故かと聞いてくるので、次のリーダーとしてズイマーちゃんを指名しますよう。

彼女は責任感がとても強いので、こうやってリーダーを任せることで自身を奮い立たせて勝手にSAN値を平均まで保ってくれます。なんて都合の良い女なんだあ（屑）

後は少しアイテムを作成して、ホモくんのスキルやステータス、各

キヤラのS A N値を最終確認したら次の日へ進みます。

———10日目。

あとはもう走り抜けるだけです。食糧はもう無いですが、探さずに道だけを進んでいきます。

途中で雑魚敵と遭遇しても無視して逃走。追いかけてきますが、ロドスの救助隊に出会うとイベントが発生して、敵の出現も一度リセットされるので問題ありません。

ヒヤツハー！ ウルサス学生自治団様のお通りだ、道を開けろー！

ん？ あの水色が散りばめられた装備を着ている集団は……ロドスだ、ロドスがいたぞー！

逃すなー！ おらつ囮め囮め！ まったく散々時間かけさせやがつてよーこの責任どう取つてくれんだ～おおん？

というわけでロドスの救助隊と合流出来ました。警戒しているホモくんとモブオペレーターが話しています。やつた、これで助かるんですね！ まあ、そうは問屋がおろさないんですけども。

ホモくんとロドスの救助隊を見下ろすように瓦礫の山から敵さん達が現れます。

何やら長々と話していますが、スキップします。おらつ、戦闘開始だ！

敵戦力は【レユニオン兵士】×20【レユニオン術師】×10【レユニオン術剣士】×4【レユニオン術剣士隊長】×1です。
とりあえず、真っ先に術師から潰します。

ホモくんを狙つた攻撃なら良いのですが、遠距離攻撃で他のキヤラの狙われると近距離キヤラのホモくんでは庇うくらいしか手立てがないからですね。

術師をわからせたら、次はボスの【レユニオン術剣士隊長】の取り巻きである術剣士4人を倒します。

ただのモブ兵士に関してはロドスの方に任せても問題ない雑魚で

すので、後ろに倒すと厄介なこいつらからやる必要があります。

最後に周りのレュニオン兵士を雑に処理してバスとご対面。

ぱぱぱつと、斬り合つて終わり、閉廷、ありがとうございました。

剣士が剣術〇を持つていてるホモくんに勝てるわけないんだよなあ

?

ボスを倒したのあとは作戦範囲外へ出てエンディングです。いやー完走した感想ですがーーー

.....

：

あれ？ 何で終わらないの???

ーーーやあ、元気だつたかい？ どうやら僕の上げたものを有効活用したみたいだね、やはり君は凄いよ！

げつ、メフィスト!? フアツ!? なんで、どうして？ 試走じゃこんなこと一度もなかつたのに!?

.....はえく、どうやらパトリオットおじさんとやり合つた状態でメフィストに出会つて、【貴族思考】スキルを持つたまま感染者になると低確率で発動するイベントみたいですね。

【貴族思考】.....また君か壊れるなあ。

ど、どうすんのこれ？ メフィストの野郎、沢山の寄生兵と更に後ろにやべーやつ連れてるじyan。あれ確実に【狂化寄生兵】くんじやん。無理だよ、3体もいるよ！

ん？ よく見たら3体の内の1体なんか赤いな.....もしかして【狂化寄生隊長】さんですか？

....どうやらホモくんの旅はこれまでのようです。ご視聴ありがとうございます(白目)

なんていうわけねえだろ!? ここまできたんだ最後までやつたろうじやないかい！

要はズイマー達5人をロドスの救助隊と一緒に作戦範囲外まで逃せばええんや！ そうすればイベントが進んで強制エンディング。これは揺るがない。

や、やれますよ私ならね。

——君があの場でパトリオットと戦えた唯一の生徒だつていうのは知つていたんだ。だから寄生体を馴染ませてから回収しようと泳がせた。今が収穫の時つてわけさ。

あつ、ホモくんがメファイストのアーツで暴走させられそうになつている!? 頑張れホモくん、精神力勝負だ！ おつ、動いた！

ホモくんを抜けてロドスの救助隊へ向かつていく2体の狂化寄生兵を身体を張つて止めて、居合斬りで吹つ飛ばし距離を取ります。

——逃げろ！

とりあえず、【不撓不屈】スキルでメファイストのアーツに抵抗できている間に急いでロドスの救助隊へ指示を出して撤退させましょう。グム達が騒いでいますが、ズイマーに頼んで無理やり撤退させます。それでも動かない者は気絶させましょう。

——健気にも抗つているんだね。今にも消え去りそうな意識の中で小さな灯火を守るように。ふふ、僕は何もしないから頑張りなよ。もつとも僕のお気に入り達が暴れてその子達が生きているかの保証はできないけどね。

狂化寄生兵達が動き出したので戦闘開始です。

未だに動かない狂化寄生隊長を警戒しながら、真っ先に2体の狂化寄生兵を狙います。

この狂化寄生兵達は常に自身への継続ダメージが発生するというデバフを背負っていますが、その分ステータスが盛られている厄介な敵です。

火力も高く、一撃で大きくHPを削られるので普通なら引き気味に攻撃を受け流しながら時間を稼ぐのが近距離キャラでの対処法なのですが、ホモくんはメファイストのアーツによつていつ戦闘不能になつてもおかしくないので捨て身で勝負を決めに行きます。

取り敢えず、相打ちで1体持つていきます。ホモくんもだいぶ削られましたが、源石を消費して回復します。そのまま、2体目も同じよう相打ち殺法で倒しました。

——自ら源石を取り込んで身体を回復させるなんて狂つてると?

そんなに仲間が大事かい？

メフィストの連れている戦力はあと沢山の寄生兵と【狂化寄生隊長】だけです。それさえ倒せればメフィスト自身には戦闘力がないので、ホモくんが倒れても問題ありません。

オットを超える攻撃力を有しています。つまりは化け物ですね。

動きも速いので、人によってはバトリオットと戦うよりもキツイと評されることもある強敵です。少なくともタイマンで相手する敵ではないのですが、こいつさえ倒せば後はクリアできそうなので後先考えず倒します。

先ずは敵が動き出す前に拾い集めておいたありつたけの源石を取り込みました。その後、源石を多数取り込んだ際にだけ使える寄生体感染者のスキル【源石暴走】を使って、突っ込みます。

このスキルはいわばスルトの第3スキルの劣化版です

物凄い速度でHPが削られていく代わりに火力が爆発的に上がります。火力はスルトのラグナロクには及ばないし、HPの減る速度はラグナロクの比じやありません。

飛はずのも炎じやなくて緑色のエネルギーを纏つた軽撃ですね。

ボモくんのアーツ能力【エネルギー交換】で少しだけ効果時間を持たせていますが、敵の狂化寄生隊長も通常個体よりボス戦補正でHPが増えているようで硬い上に、何もしないとか抜かしておいてヤバくなつたからとアーツで回復させてくるメフィストのせいで中々倒れません。

周りの寄生兵は全部倒したので後は狂化寄生隊長だけなんですが、ホモくんの身体が結晶化するのが先か敵が倒れるのが先か分からなくなりました。

なんとかなれー！

……よっしゃ！ 倒しきりました！ 後は本当にズイマー達が作戦範囲外へ出ればエンディングですね。

画面が変わつて、装甲車でロドス本艦へ向かうズイマー達を背にス
タッフルールが流れています。

——『貴族として』取得

ふうー！　トロフィーも無事に取れました。これでウルサスの子
供たちシナリオの『貴族として』取得RTAを終わりたいと思います。
完走した感想ですが、やはり試走も全然せずに思いつきと暇つぶし
でRTAをやるもんじやないという教訓を得ました。この経験を活
かして、シーボーン共を蹴散らしたいと思います。

今までご視聴ありがとうございました！　それじゃあ、お疲れ様で
したー！